文部科学省委託　専修学校の国際化推進事業

外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備

事業報告書　令和７年度

外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

一人ひとりに、未来への約束。

日本電子専門学校

▌まえがき

本報告書は、令和７年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業（外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備）において、学校法人電子学園 日本電子専門学校（以下「当校」）が推進した「外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備」の活動内容および事業成果を取り纏めたものです。

＊

日本のIT産業は近年、デジタルトランスフォーメーション（DX）急速な進展に伴い、質も量も共にIT人材の確保が喫緊の課題になっています。

経済産業省の報告に拠れば、IT人材は2030年に最大で約79万人が不足すると予測され、この課題解決には国内外を問わず多様な人材の確保と養成が求められています。そのような中、即戦力として期待される外国人IT人材の受入れと定着の支援は、業界全体の持続的な成長のために極めて重要な戦略と言えます。

他方で、日本の高等教育機関における外国人留学生の受入れは、ポストコロナにおいて回復傾向にあるものの、専修学校だけは依然として低調です。加えて、留学生の国内就職率は約40%に留まり、企業と留学生を繋ぐ仕組の強化が求められます。日本政府は2033年までに外国人留学生40万人を受け入れるとの目標を掲げていますが、その実現には、専修学校が果すべき役割が今後さらに増大することは明白です。

かような現状を踏まえ、本事業では、東京都に所在する当校が、中国・韓国・ベトナムを主要対象国にし、外国人IT留学生の戦略的な受入れ、実践的なIT教育、持続的な就職・定着支援を一貫して実施する「外国人IT人材アジア連携留学支援体制」の構築を目指しました。

この支援体制では、単に留学生の受入れを拡大するだけでなく、教育機関・企業・行政機関が連携することで、留学生が学びからキャリア形成までをスムーズに進められる仕組を構築・整備する点に特長があります。

本事業には４つの活動趣旨があります。

第一に、オンラインでの広報・募集や交流の活動を強化し、海外の留学志望者に対して日本のIT専門学校で学ぶ意義や将来のキャリアパスを明確に示します。

第二に、IT専門学校における教育プログラムを充実させ、基礎学力の向上や日本語能力の強化と共に、企業との連携による実践トレーニングや課題解決型学習（PBL）を導入して即戦力の養成を図ります。

第三に、留学生の生活支援体制を強化し、言語・文化・法制度・経済面等での不安を解消する取組を進めます。

第四に、留学生の就職支援策を拡充し、企業とのマッチングの最適化と共に、評価・認定制度等の構築を検討し、企業が留学生を安心して受け入れられる仕組を整えます。

特に東京都は、日本経済の中心地であり、IT産業が集積しています。そのため、本事業を成功させれば、その成果が全国の専修学校にも拡がる新たな戦略モデルとなると期待できます。それは延いては、日本の

IT専門学校の国際的評価の向上に繋がります。その上で、留学生が日本で培った知識・技術を活かして母国や日本のIT産業に貢献することは、日中韓越の経済協力・技術革新の進展にも寄与します。

かくして、本事業の成功には、「オールジャパン」の意識が欠かせません。少子高齢化が進む日本においてIT分野の人材不足を解決して国際競争力を強化するためには、教育機関・産業界・行政が一体になった包括的な取組が求められます。専修学校単独でなく日本全体が協力し合うことで、より効果的な人材養成と定着支援を実現できるのです。

そのため、本事業では、日本国内のIT専門学校や日本語学校・大学、現地の教育機関や有識者、産業界からIT企業や団体、さらに当校が所在する新宿区や東京都にもご参画いただき、正に「オールジャパン」の事業推進体制を敷きました。

「オールジャパン」の考え方は、国内の産学官連携にとどまりません。日本で学んだ留学生が卒業後、国内のIT企業で活躍するだけでなく、母国の産業発展に貢献することも視野に入れています。日本とアジア諸国が協力し、IT分野での人材交流を活発化することで、国際的な技術革新を促し、より強固な経済関係を築けます。こうした持続可能な人材養成モデルこそ、日本の専修学校が果すべき役割であり、本事業の根幹になる理念です。

本事業を通じて日本全体が一体になり、外国人IT人材の養成と活用に取り組むことで、DX時代に適応した高度人材の供給を実現し、国際社会における日本の存在感をより高めてゆけるものと確信しています。

＊

最後に、本事業での活動に際し、事業推進委員会・分科会を構成する委員各位ならびに関係者の皆様から多大なるご支援を賜りました。ここで、そのご厚情に心から感謝を申し上げます。

令和８年２月

「外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備」事業推進委員会

（代表機関）学校法人電子学園 日本電子専門学校

目　次

まえがき i

目　　次 iii

第1章　事業概要

1.1　事業趣旨 2

1.2　事業背景

1.2.1　日本のIT人材事情 3

1.2.2　専修学校の留学生事情 3

1.2.3　東京都のIT人材事情 4

1.2.4　アジア留学生とIT人材事情 5

1.3　事業計画

1.3.1　全体スキーム 7

1.3.2　年次計画 8

1.4　事業推進

1.4.1　実施内容 10

1.4.2　推進体制 11

1.4.3　事業推進委員会 14

第2章　調査報告

2.1　調査概要 16

2.2　調査④ IT専修学校留学生教育実態調査 17

2.2.1　調査仕様 17

2.2.2　調査内容 17

2.2.3　調査結果 21

2.2.4　調査考察 27

2.3 調査⑤ IT留学予備生キャリア意識調査……29
2.3.1 調査仕様……29
2.3.2 調査内容……29
2.3.3 調査結果……33
2.3.4 調査考察……39

2.4 調査⑥ IT留学生用日本語教材事例調査……42
2.4.1 調査仕様……42
2.4.2 調査結果……42
2.4.3 調査考察……63

第3章 開発報告

3.1 開発概要……66

3.2 日本IT留学広報媒体拡張……68
3.2.1 日本IT留学ウェブサイト……68
3.2.2 日本IT留学パンフレット……69

3.3 オンライン教育システム開発……70

3.4 IT留学生教育プログラム開発……72
3.4.1 開発経緯……72
3.4.2 カリキュラム……74
3.4.3 シラバス……81

3.5 IT留学生教育コンテンツ制作……105
3.5.1 講義映像……105
3.5.2 演習課題……109
3.5.3 自習問題……112

3.6 IT留学生学修評価基準策定……115
3.6.1 設計方針……115
3.6.2 評価レベルと運用想定……116
3.6.3 IT留学生学修評価基準……118

第4章　催行報告

4.1　催行概要……126

4.2　オンラインオープンキャンパス……127

4.2.1　催行概要……127

4.2.2　催行内容……128

4.2.3　参加アンケート……132

4.3　教育プログラム実証講座……140

4.3.1　実施概要……140

4.3.2　実施内容……142

4.3.3　実施結果……147

第5章　事業総括

5.1　Context――論点と課題……170

課題の所在（「IT以前」の制約要因）／ 前年度→本年度のシフトが示した論点 ／
本年度総括における評価視点

5.2　Ｉｎｐｕｔ――設計と投入……171

設計方針（〈体系→計画→教材〉への段階化 ／ 投入資源（体制・素材・品質担保）／
最小構成としての４科目設定

5.3　Process――開発と催行……172

調査→分析→設計への翻訳 ／ 開発プロセス（標準化とレビュー反復）／ 催行（実地運用による検証）

5.4　Product――成果と効果……173

成果物（Output）の整理 ／ 効果（Outcome）の観察 ／ 残された課題（改善の焦点）

5.5　Outreach――展開と波及……174

専修学校業界への展開可能性 ／ 留学生事情・産業界への波及可能性 ／ 展開の条件（運用と更新）

5.6　Roadmap――移行と接続……175

次年度事業計画の重点（生活支援を中核にした再設計）／ 本年度製菓の活用方針（再利用と接続点）／
４箇年度計画における本年度事業の位置付け

補　章　別掲資料

IT留学生教育コンテンツ：演習課題……178

IT留学生教育コンテンツ：自習問題……184

第1章

事業概要

1.1　事業趣旨

日本では現在、少子高齢化による労働人口の減少に伴い、IT技術者の不足が深刻である。日本のIT人材は2030年までに最大79万人不足すると予測されている。

この問題を解決し得る一策がDXの推進であるが、そのためのIT/DX人材の養成が急務である。また、国際競争力の強化のために多様な人材の確保が求められるが、そこでは外国人IT人材の受入れが鍵になる。

これに併走する形で、日本政府は留学生受入数を2033年までに40万人にする目標を掲げた。専修学校はそこで、重要な役割を担っている。

しかし、ポストコロナ時代に入った2023年、高等教育機関のうち専修学校だけが留学生受入数において回復の兆しを見せていない。また、留学生の日本での就職率は約40%に留っている。

そのため、留学生の受入れ戦略と共に、就職支援や企業連携の強化が求められる。

その際、東京都は日本経済の中心で、IT企業が集中し、外国人IT人材も全国最多ではあるが、その人材不足はやはり深刻で、IT分野留学生に対する期待も高まっている。

そこで、本事業では、東京都に所在するIT専修学校が、近年急速な経済成長とIT産業の発展を遂げている中国・韓国・ベトナムを対象にし、そこからの留学生受入れを増加した上で、彼らへの実践的なIT教育と生活サポートを強化し、企業等との連携を通じた就職促進を実現する、入口から出口までの一貫した支援体制のモデル構築を試みる。

これにより、日本のIT専修学校の国内外での評価を向上させるのと共に、留学生の国際的キャリア形成を支援しながら、日本のIT産業における人材供給と競争力強化に寄与し、日中韓越の経済協力と技術革新を促進することを目指す。

1.2　事業背景

1.2.1　日本のIT人材事情

IT人材の不足

日本は少子高齢化によって労働人口が減少し、特にIT分野では技術者不足が深刻である。経済産業省に拠れば、2030年までに最大で約79万人のIT人材が不足する可能性がある[★1]。この不足は、新たな技術の開発と普及に対応できる人材が圧倒的に不足していることに起因する。

DXの推進

他方で、日本企業は現在、競争力を維持して国際市場での地位を確保するべく、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進している。IPAに拠れば、DXは、企業の生産性向上と新たなビジネスモデルの創出に不可欠であり、そのためのIT人材の育成が急務である[★2]。

国際競争力の強化

かくして、日本のIT産業は現在、国際競争力を強化するべく、多様な人材を求めている。グローバルな視点を有する外国人IT人材は、新たなアイデアや技術をもたらし、イノベーションを促進することが期待される。かような多様性（ダイバーシティ）のある職場は、創造性と生産性が高まる傾向にある[★3]。

1.2.2　専修学校の留学生事情

留学生受入れ数の目標と専修学校の役割

外国人留学生は、新型コロナウイルス感染症の影響で2022年に約23万人に減少したが、ポストコロナ時代の動向として2033年までに40万人の受入れを目指す政府目標が掲げられている[★4]。この目標の達成には、現在の留学生数全体の約22%を占め、専門的な技術教育・職業教育を提供して実務に直結したスキルのある人材を養成する専修学校が果すべき役割が重要である。ゆえに、専修学校における留学生の受入れや就職・国内定着支援等がこれまで以上に求められるところである。

ところが、コロナ禍の前後を含む直近５年間の高等教育機関等への留学生数を見ると、どの教育機関も2020年から留学生受入数が減ったが、ポストコロナ時代に入った2023年、専修学校以外の教育機関は復調の兆しを示している[★5]。つまり、専修学校だけが留学生受入数を回復できていないのである（下表参照）。これは、深刻な状況かつ喫緊の課題である。かくして、専修学校と日本語学校、そして産業界が連携する、留学生受入れの新たな戦略モデルが求められる。

年	留学生総数	高等教育機関				日本語教育機関
		大学院	大学・短期大学・高等専門学校	専修学校（専門課程）	準備教育機関	
2019年	312214人	53089人	92952人	78844人	3518人	83811人
2020年	279597人	53056人	83077人	79598人	3052人	60814人
2021年	242444人	52759人	76499人	70268人	2351人	40567人
2022年	231146人	53122人	74390人	51955人	2274人	49405人
2023年	↗ 279274人	↗ 55539人	↗ 82818人	↘ **46325人**	↗ 3873人	↗ 90719人

高等教育機関・日本語教育機関における留学生数の推移： 2019〜2023年

就職率向上の必要

専修学校への留学生の日本での就職率は40%弱に留まっている[★6]。これは、留学生が専修学校で習得した知識や技術を日本の実際の職場で活用する機会が限られているということである。かような状況を改善するべく、専修学校は、留学生の就職支援や企業等との連携を強化する必要がある。

特に本事業の取組地域で当校が所在する東京都は、留学生数が他府県に比べて圧倒的に多い地域であるが、その専修学校留学生の約７割が、そして工業分野留学生に限れば８割強が卒業後は日本で就職したいとの意向を持っている[★7]。ゆえに、東京都のIT分野の専修学校留学生の受入れ・就職支援等の促進策は、延いては専修学校全体の留学生教育の振興を先導する戦略モデルになり得る。

1.2.3 東京都のIT人材事情

労働市場の現状

本事業の取組地域である東京都は、日本経済の中心であり、多くのIT企業が集中している上に、デジタル技術の発展を促進してスマートシティの構築を目指している[★8]。それにも拘らず、IT人材の不足が深刻な問題になっている。経済産業省に拠れば、東京都も全国と同様、IT人材の需要が供給を上回り、2030年に約55万人のIT人材が不足する見込みである[★9]。

外国人材の重要性

東京都は、多様性と国際化の推進に積極的で、外国人材の採用が経済成長の鍵になり、“東京”の国際競争力を高めると考えている。外国人材の活用により、新たな視点や技術が導入されて企業等のイノベーションが促進されることで、東京都のIT産業全体の競争力が向上すると言う[★10]。

IT分野留学生の価値

東京都のIT企業は、国際競争力を高めるべく多様な人材を必要としている。そこで、IT分野留学生は、高度のスキルと異文化理解を兼ね備えた即戦力として期待されている。実際、情報通信業に従事する外国人材の割合は東京都では第３位（全国では第６位）で、全国の情報通信業に従事する外国人材の約45％が東京都に所在する[★11]。そして、東京都の留学生受入数は全国最多であるが、特にIT分野留学生には高い需要がある。東京都の専修学校が留学生受入れを拡大して実践的なIT教育を提供することで、最新の技術と実務経験を有する外国人IT人材が養成され、留学生こそIT人材不足解消の鍵になり得る。

1.2.4　アジア留学生とIT人材事情

急速な経済成長とIT人材需要

本事業のターゲット国である中国・韓国・ベトナムは近年、急速な経済成長を遂げ、特にIT産業の発展が顕著である。例えば中国は、第四次産業革命の柱であるAI・ビッグデータ・IoT・ロボット等の分野でも世界をリードし、優秀なIT人材が豊富である。現地シンクタンクに拠れば、中国人留学生数は2021年に102万人を超え（世界最多）、その多くがIT分野を志望している[★12]。それは、今やIT先進国として知られる韓国や、数々の世界的IT企業が拠点を置くベトナムも同様で、IT人材需要の増加に伴い、IT分野への進学意欲が高い。しかし、IT産業が急速に発展するこの３国でも例に漏れず、IT人材の需給ギャップが生じている。特に高度スキルを有するIT人材が不足し、国や企業はグローバルな視点を持つIT人材を求めている。

IT分野専修学校への留学の魅力

実践的な職業教育と最新の技術設備を提供する日本の専修学校では、留学生は即戦力になるスキルを習得できる。特に東京都は、多くのIT企業やスタートアップが集中しているため、インターンシップや就職の機会も豊富である。

日本で学ぶことで、留学生は国際的なキャリアパスを築ける。日本企業での就職経験は、帰国後のキャリアにも大きなプラスになる。特に中国・韓国の場合、自国の進学・就職競争が苛烈であるため、国外への留学・就職は彼らにとって進路の大きな選択肢の一つになっている。日本のIT企業は多国籍化が進んで外国人材の受入体制も比較的整っているため、留学生にとって魅力的な就職先になり得る。それはベトナムの学生にとっても同様で、日本企業への就職は大きな魅力であり、それに先立つ職業教育機関として専修学校が有力候補になる。

＊

ポストコロナ時代に入り、日本政府も、従来の「留学生30万人計画」から10年後の留学生受入数40万人へと目標値を上方修正してきた。しかし、現在、高等教育機関の中で専修学校だけがそれに向けて少し出遅れている。加えて、留学生の日本での就職・定着にも課題がある。

かくして、それを解決するべく、留学生の受入れから教育・生活・就職・定着までを一貫して産学官連携で支援する体制モデルの構築が求められる。

留学生を今以上に受け入れることで、専修学校は多様性を高め、教育の質を向上できる。そして、日本人学生は、異文化交流を通じて国際的な視野を広げられる。他方で、留学生は日本の先進的な技術やビジネス文化を学び、

日本（または自国）のIT産業に貢献できる。高度の技能を持つ人材が増えることで、日本のIT産業は更に活性化し、技術革新が促進される。延いては、東京都の経済成長にも寄与する。相手国のIT産業においても、日本での学習経験を持つ人材が活躍することで、技術力の向上と国際競争力の強化が期待される。

また、専修学校の留学振興を考える場合、大学等におけるダブルディグリー／ジョイントディグリー等に類する制度の構築についても、検討が求められよう。本事業では、その辺りの議論も含めた留学支援体制モデルの提案も企図する。

★1　経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課「IT人材育成の状況等について」2019年３月

★2　独立行政法人情報処理推進機構『「DX推進指標」とそのガイダンス』2023年12月

★3　経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室「ダイバシティ経営の推進について」2024年２月

★4　内閣官房 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」2023年４月

★5　独立行政法人日本学生支援機構「2023（令和５）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」2024年５月

★6　株式会社三菱総合研究所『専修学校における留学生教育のポイント【改訂版】～留学生の教育体制整備の充実に向けて～』（文部科学省委託事業「専修学校におけるグローバル化対応に係る実態等調査」）2020年２月

★7　公益社団法人東京都専修学校各種学校協会『専門学校に在籍する留学生の実態調査 報告書』（文部科学省委託「専修学校グローバル化対応推進支援事業」）2021年３月

★8　東京都「スマート東京実施戦略 SEASON５～2024（令和６）年度の取組～」2024年３月

★9　みずほ情報総研株式会社『IT人材需給に関する調査 報告書』（経済産業省委託「IT人材等育成支援のための調査分析事業」）2019年３月

★10　東京都産業労働局『外国人材と働くためのハンドブック～採用から定着まで～』2021年３月

★11　同前「中小企業における外国人材活用の現状と課題」2020年７月

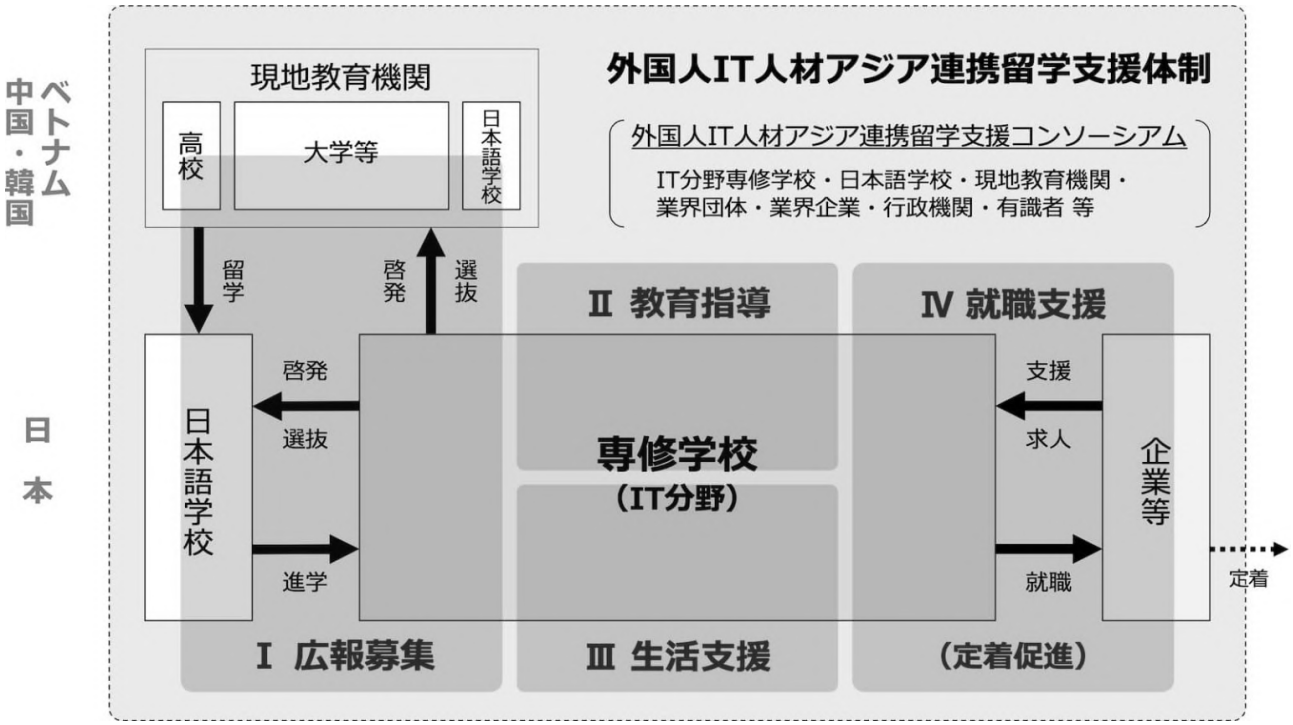
★12　全球化智庫（CCG）『中国留学発展報告 №８（2022）』2023年７月

1.3　事業計画

1.3.1　全体スキーム

本事業では、専修学校留学生教育の新たな戦略モデルにおいてDXにも対応し得る外国人IT人材を養成するべく、日本の専修学校・日本語学校・産業界とアジア（中国・韓国・ベトナム）の現地教育機関が連携し、オンラインでの授業提供や学修評価を実現する**教育基盤**と、留学生の受入れ・就職を促進する**支援体制**を一体化した**外国人IT人材アジア連携留学支援体制**を構築する。これにより、IT分野専修学校における入口から出口までの一貫した留学生支援と人材供給ルートの確保を可能にする。

その際、この支援体制では、専修学校における留学生対応活動を、**広報募集／教育指導／生活支援／就職支援**という４つの局面で支援する。



Ⅰ　広報募集

ウェブサイトやSNSに活用により、日本での学びや就職、専修学校の魅力、各種制度等に関する情報を発信し、啓発活動を行う。また、オンラインオープンキャンパスの実施により、現地学生が自国にいながら留学先の学校や留学経験者等と交流できる機会を設け、留学候補者の確保を支援する。そして、募集活動の一環として選抜試験や短期の入学前教育を実施する。

Ⅱ　教育指導

入学後の通常カリキュラムでは手薄になりがちな日本語能力の強化や職業マインドの醸成、日本事情・文化の

理解等について、オンラインで補完学習を進められる教育プログラムを展開し、彼らの学びを支援する。また、実践的教育として企業等と連携した対面でのPBL（課題解決型学習）や職場体験も実施する。さらに、その学修を評価・認定する制度も整備する。

Ⅲ　生活支援

留学生が在学中に日本での学びや暮しを安心して継続できるよう、在籍管理から生活サポートまで広く、彼らを支援する。そのため、普段彼らとの接触が多い留学生担当等の教職員を対象にした啓発コンテンツの制作や情報共有会・研修会等の開催、インターカレッジでの留学生交流会等の企画を実施する。

Ⅳ　就職支援

求人情報の提供の他、各留学生の希望条件・能力要件等に合せて就職先とのマッチング支援を行う。その一環として、学校の質保証によって就職先がその学校の卒業生を安心して受け入れられるような評価・認定制度を構築する。また、留学生が就職後も継続的に学びを深められるような教育コンテンツを提供したり相談窓口を開設したりすることで、日本での定着の促進を図る。

1.3.2　年次計画

本事業は、令和６～９年度の４年間で推進するものである。

各年度の事業は、**会議・調査・開発・催行・報告**という共通の枠組で推進する。

会議：　事業の推進および各活動の実作業に関する協議
調査：　開発や催行に資する基礎資料の作成のための３テーマに関する調査
開発：　広報や各種支援に資する媒体や、教育プログラムおよび各種コンテンツの制作・作成
催行：　海外の日本留学志望者向けのオンラインオープンキャンパスや、国内の留学生・教職員・企業等向けの交流会・研修会・説明会等の開催・実施
報告：　事業実施の取り纏めとして成果報告会の開催と事業報告書（本書）の作成

そして、各年度の取組は、**1.3.1**で見た留学生対応活動の４局面に基づき、次のような展開で推移する。

令和６年度：　【活動Ⅰ】入学前の広報募集
令和７年度：　【活動Ⅱ】在学中の教育指導
令和８年度：　【活動Ⅲ】在学中の生活支援
令和９年度：　【活動Ⅳ】卒業年の就職支援

その上で、各年度の具体的な取組内容を次のように設定する。

▼ 各年度の取組内容

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
	【活動Ⅰ】 入学前の広報募集	【活動Ⅱ】 在学中の教育指導	【活動Ⅲ】 在学中の生活支援	【活動Ⅳ】 卒業年の就職支援
会議	○ 事業推進委員会　3回開催 ○ 分科会　4回開催	○ 事業推進委員会　3回開催 ○ 分科会　4回開催	○ 事業推進委員会　3回開催 ○ 分科会　3回開催	○ 事業推進委員会　3回開催 ○ 分科会　3回開催
調査	① IT専修学校留学生受入れ実態調査 ② 日本語学校IT留学生進路実態調査 ③ オンライン教育システム事例調査	④ IT専修学校留学生教育実態調査 ⑤ IT留学予備生キャリア意識調査 ⑥ IT留学生用日本語教材事例調査	⑦ IT専修学校留学生支援実態調査 ⑧ IT留学生日本生活実態調査 ⑨ 在留外国人支援サービス事例調査	⑩ IT専修学校留学生就職実態調査 ⑪ IT企業留学生採用実態調査 ⑫ IT留学生キャリア意識調査
開発	01 日本IT留学ウェブサイト制作 02 日本IT留学SNS設定・運用 03 日本IT留学パンフレット制作 04 日本IT留学選抜試験作成 05 オンライン教育システム仕様策定	06 日本留学広報媒体拡張 07 オンライン教育システム開発 08 IT留学生教育プログラム開発 09 IT留学生教育コンテンツ制作 10 IT留学生学修評価基準策定	11 IT留学生教育プログラム改良拡張 12 留学生生活支援指導ガイド（動画・パンフレット等）制作 13 留学生向け生活支援ガイド（動画・パンフレット等）制作	14 IT企業向け留学生採用PRコンテンツ（動画・リーフレット等）制作 15 IT留学生向け就職促進コンテンツ（動画・パンフレット等）制作 16 IT留学生就職支援制度設計
催行	◆ オンラインオープンキャンパス韓越　計４回開催	◆ オンラインオープンキャンパス中韓越　計３回開催 ◆ 実証講座（1箇月）実施	◆ オンラインオープンキャンパス中韓越　計２回開催 ◆ 留学生生活支援研修会３回開催 ◆ 留学生交流会　1～2回開催	◆ オンラインオープンキャンパス中韓越 計２回開催 ◆ 企業向けIT専修学校説明会２回開催 ◆ IT留学生就職促進フェア２回開催
報告	○ 成果報告会　１回開催 ○ 事業報告書　300部作成	○ 成果報告会　１回開催 ○ 事業報告書　150部作成	○ 成果報告会　１回開催 ○ 事業報告書　150部作成	○ 成果報告会　１回開催 ○ 事業報告書　150部作成

各年度によって活動テーマは異なるが、いづれの年度の取組でも、事業推進委員会を３回、そしてオンラインオープンキャンパスも３回開催する。

1.4　事業推進

本事業は本年度（令和７年度）、令和７年５月28日から令和８年３月１日まで、９箇月強に亘って実施された。

その間、事業を実施するための事業推進委員会・分科会を福岡県（久留米市）と東京都（新宿区と千代田区）、そして事業成果を共有するための成果報告会を東京都（千代田区）で開催した。

その上で、本事業の**実施内容**および**推進体制**は、次の通りである。

1.4.1　実施内容

本事業は令和６～９年度の４年間で推進するもので、各年度の年次計画は**1.3.2**で見た通りであるが、本年度（令和７年度）事業では実際、次のようなことに取り組んだ。

会議	○ 事業推進委員会　３回開催	第１回：７月18日、第２回：11月28日、第３回：１月23日に開催
	○ 分科会　４回開催	各取組の進捗状況等に応じ、事業推進委員会の前後に開催
調査	④ IT専修学校留学生教育実態調査	質問紙法＆ウェブ回答／IT留学生受入れ専修学校100校対象
	⑤ IT留学予備生キャリア意識調査	質問紙法＆ウェブ回答／在アジアの日本留学希望学生120人対象
	⑥ IT留学生用日本語教材事例調査	デスクリサーチ／各種公開資料（出版物・ウェブサイト等）
開発	01 日本留学広報媒体拡張	IT専修学校への留学を促すPRウェブサイト＆パンフレット中国語版の制作
	02 オンライン教育システム開発	IT専修学校留学生向け教育プログラムを展開する教育基盤の仕様（前年度策定）の一部を抽出して構成したプロトタイプの開発
	03 IT留学生教育プログラム開発	IT専修学校留学生向け教育プログラム（全40講）のカリキュラム（教育体系）・シラバス（授業計画）の開発
	04 IT留学生教育コンテンツ制作	IT留学生教育プログラム（4科目40講）の講義映像・演習課題・自習問題の制作
	05 IT留学生学修評価基準策定	IT留学生教育プログラムの学修成果を評価・認定する基準体系の開発
催行	◆ オンラインオープンキャンパス　３回開催	ベトナム：10月19日、韓国：10月22日、中国：11月２日に開催
	◆ 実証講座（３週間）実施	１月13日～２月６日に実施／日本電子専門学校在籍留学生32人対象
報告	○ 成果報告会　１回開催	１月23日に開催
	○ 事業報告書　150部作成	事業推進委員および関係者に配付、データはウェブサイトで公開予定

1.4.2　推進体制

本事業の推進体制として、**事業構成機関**（機関として本事業に参画した学校・企業・団体等）は次の通りである。

機関区分	名　　称	役 割 等	都道府県
教育機関	学校法人電子学園 日本電子専門学校	事業統括 全活動企画・実施	東京都
	学校法人吉田学園 吉田学園情報ビジネス専門学校	モデル検討・構築 プログラム開発	北海道
	学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台	モデル検討・構築 プログラム開発	宮城県
	学校法人中央工学校 中央工学校附属日本語学校	留学生支援策検討 プログラム開発	東京都
	学校法人アジアの風 岡山外語学院	留学生支援策検討 プログラム開発	岡山県
	学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール 日本語学科	留学生支援策検討 プログラム開発	福岡県
	学校法人電子学園 情報経営イノベーション専門職大学	モデル検討・構築 プログラム開発	東京都
	国立大学法人信州大学 グローバル化推進センター	留学生支援策検討 留学生教育情報提供	長野県
業界団体 関連企業	JTP株式会社	モデル助言・評価 プログラム開発	東京都
	株式会社オリジネーター	外国人雇用情報提供 留学生支援策検討	東京都
	東京商工会議所 墨田支部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
	公益財団法人日本数学検定協会	モデル助言・評価 プログラム開発	東京都
	一般社団法人外国人留学生高等教育協会	留学生教育連携強化 事業成果普及	東京都
行政機関	東京都 産業労働局 雇用就業部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
	東京都 新宿区 地域振興部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
有識者	瑞逸大学校 ビジネス日本語学科	日本-アジア連携強化 留学生支援策検討	韓　国
	慶熙大学校 外国語大学 日本語学科	日本-アジア連携強化 留学生支援策検討	韓　国

以上の各機関には、事業推進のために次のような協力を要請した。

教育機関

○ 専修学校留学生の教育・各種支援策・就職状況等に関する情報提供
○ 専修学校留学生の受入れモデルの検討・構築や教育プログラムの開発
○ 教育プログラムおよび各種研修・催事等の実施に係る準備やリソース提供

企業・団体

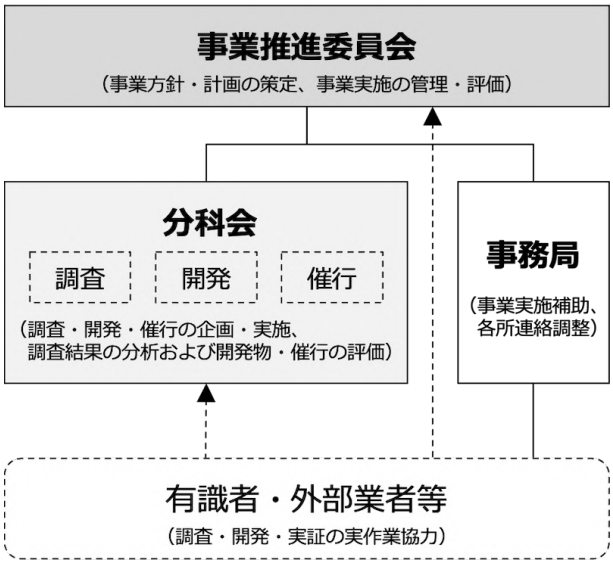
○ IT業界における外国人材雇用の実態・課題・需要等に関する情報提供
○ 専修学校留学生教育の振興に資する日本-アジア連携の支援・強化
○ 専修学校留学生の受入れモデルの助言・評価や教育プログラムの開発
○ 教育プログラムおよび各種研修・催事等の実施に係る準備やリソース提供

行政機関・有識者

○ 対象地域の当該分野の社会的課題・産業事情等に関する情報提供と助言
○ 対象地域の当該分野の専修学校留学生教育モデル等に関する助言

そして、開発した教育プログラムおよび各種成果物に対する評価と、事業終了後の展開策の検討に関する協力を全機関に要請した。

その上で、本事業の実施体制として、**事業推進委員会**と**分科会**を設置した。



事業推進委員会（当校主幹）は、事業推進の方針・計画・内容・方法等、本事業の重要事項を検討・決定し、事業全体のマネジメントや成果の評価等を担う。その構成機関は、IT分野専修学校や日本語教育機関の他、当該分野の専門教育や留学生支援に関する豊富な知見・ノウハウ・実績等を有する団体・企業、そして本事業対象地域の自治体である。

分科会は、事業推進委員会が決定した方針・事項等に従い、調査・開発等の各活動の仕様策定や実作業を担う。その際、実作業の一部は、事業推進委員会・分科会の管理の下、有識者・外部企業等の協力を得て進める。

また、文部科学省および事業推進委員会・分科会構成機関への連絡・調整の他、事業経費や各種文書の管理等の事務作業は、**事務局**が担う。

尚、本事業の**事業推進委員会構成員**（事業構成機関からの参画者および個人での参画者等）は次の通りである。

No.	氏　名	所属・役職	都道府県
1		学校法人電子学園 日本電子専門学校 経営企画室	東京都
2		学校法人電子学園 日本電子専門学校 経営企画室	東京都
3		学校法人電子学園 学生募集部	東京都
4		学校法人吉田学園 吉田学園情報ビジネス専門学校	北海道
5		学校法人菅原学園 専門学校仙台総合医療大学校	宮城県
6		学校法人中央工学校 中央工学校附属日本語学校	東京都
7		学校法人アジアの風 岡山外語学院	岡山県
8		学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール日本語学科	福岡県
9		株式会社東京日英 東京日英学院	東京都
10		学校法人電子学園 情報経営イノベーション専門職大学	東京都
11		国立大学法人信州大学 グローバル化推進センター	長野県
12		JTP 株式会社 コーポレート本部	東京都
13		株式会社オリジネーター	東京都
14		東京商工会議所 墨田支部	東京都
15		公益財団法人日本数学検定協会	東京都
16		一般社団法人外国人留学生高等教育協会	東京都
17		東京都 産業労働局 雇用就業部	東京都
18		新宿区 地域振興部　多文化共生推進課	東京都
19		瑞逸大學校 ビジネス日本語學科	韓 国
20		慶熙大學校 外國語大學 日本語學科	韓 国
21		学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール日本語学科 教務課	福岡県
22		学校法人電子学園 学生募集部	東京都

1.4.3　事業推進委員会

事業推進の中心的役割を担う**事業推進委員会**（その構成員は**1.4.2**）は、次の日時・場所で本事業期間内に３回開催された。

- **第１回**：　令和７年07月18日（金）15:00～17:00　@専修学校久留米ゼミナール（福岡県久留米市）
- **第２回**：　令和７年11月28日（金）15:00～17:00　@日本電子専門学校（東京都新宿区）
- **第３回**：　令和８年01月23日（金）15:00～17:00　@ホテルグランドヒル市ヶ谷（東京都千代田区）

各回の概要は次の通りである。

回　次	**第１回**	**第２回**	**第３回**
日　時	令和7年７月18日（金） 15:00～17:00	令和７年11月28日（金） 15:00～17:00	令和８年１月23日（金） 15:00～17:00
場　所	専修学校久留米ゼミナール （福岡県久留米市）	日本電子専門学校 （東京都新宿区）	ホテルグランドヒル市ヶ谷 （東京都千代田区）
議　事	１　委員長挨拶 ２　会場校挨拶 ３　各委員挨拶 ４　事業計画概要共有 ５　日本語教育現場視察 ６　来日留学生交流会	１　委員長挨拶 ２　会場校挨拶 ３　事業進捗状況共有 ４　来日留学生交流会	１　委員長挨拶 ２　本年度事業成果報告 ３　課題検討 ４　意見交換
配付物	① 委員名簿 ② 事業計画書 ③ 第１回事業推進委員会検討資料 ④ 来日留学生交流会用質問シート ⑤ 日本IT留学パンフレット（日韓版）	① 委員名簿 ② 第１回事業推進委員会議事録 ③ 第２回事業推進委員会検討資料	① 委員名簿 ② 第２回事業推進委員会議事録 ③ 第３回事業推進委員会検討資料 ④ IT専修学校留学生教育実態調査 ⑤ IT留学予備生キャリア意識調査 ⑥ 日本IT留学パンフレット（日中版）
備　考	会前後に調査・催行分科会開催	会前後に開発・催行分科会開催	会前後に催行分科会開催 閉会後に成果報告会開催

尚、事業推進委員会の第１回の会前後に調査分科会・催行分科会（該当委員等）、第２回の会前後に開発分科会・催行分科会（該当委員等）、そして第３回の会前後に催行分科会（該当委員等）と閉会後に成果報告会（全委員）が開催された。

第2章

調 査 報 告

2.1　調査概要

本事業では本年度（令和７年度)、教育指導活動における開発・催行に先立ち、それに資する次の３調査を実施した。

調査④：　IT専修学校留学生教育実態調査

調査⑤：　IT留学予備生キャリア意識調査

調査⑥：　IT留学生用日本語教材事例調査

この３調査は各々、本年度の活動取組の基礎資料にするべく、次のような目的で実施した。

調査④　IT専修学校留学生教育実態調査

IT専修学校における留学生教育の実態を把握することで、本事業における教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。

調査⑤　IT留学予備生キャリア意識調査

IT分野への進学・就職を希望するアジア学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。

調査⑥　IT留学生用日本語教材事例調査

IT留学生に適した日本語の既存教材に関する情報を収集・整理することで、IT留学生教育プログラムの教育内容を策定し、開発の基礎資料にする。

次節以降、この３調査の各々について、調査内容・調査結果等を詳説する。

2.2　調査④ IT専修学校留学生教育実態調査

調査④は**IT専修学校留学生教育実態調査**である。

これは、IT専修学校における留学生教育の実態を把握することで、本事業における教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.2.1　調査仕様

本調査の**仕様**（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

名　称	IT専修学校留学生教育実態調査
目　的	IT専修学校における留学生教育の実態を把握することで、本事業における教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。
対　象	全国のIT留学生受入れ専修学校100校 ➡ 有効回答者42校
手　法	質問紙法＆ウェブ回答
項　目	留学生の人数・出身地、日本語能力と日本語学習状況、留学生向けの特別プログラムやサポート体制、課題、教育指導上の工夫 等

2.2.2　調査内容

本調査における具体的な質問項目は次の13項である。

回答者校における――

① 留学生の出身地　② 留学生の日本語能力（最多層レベル・N2以上生割合）

③ 留学生の講義学修定着度（日本人学生との比較）　④ 留学生の学修影響要因

⑤ IT実習における留学生指導の難点　⑥ 留学生へのIT技術最新トレンド指導における障壁

⑦ 留学生のITスキル定着度の測定法　⑧ 留学生への日本IT企業文化・職業意識指導における工夫点

⑨ 補完教育（実施有無・高効果教育・実施意向）　⑩ 留学生の日本語能力の不足を補う教材面での工夫点

⑪ 専門用語指導時の伝達法の工夫点　⑫ 生活・学習継続のための支援体制　⑬ 孤立防止策

これに基づいて作成した**調査票**を以下に掲載する。

▼【調査票】調査④ IT専修学校留学生教育実態調査

令和７年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業――外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

IT専修学校留学生教育実態調査

問01 貴校に在籍する留学生（以下、単に「留学生」）の出身国・地域はどこですか。[上位３つ選択]

□ 中国　□ 台湾　□ 韓国　□ ネパール
□ ベトナム　□ ミャンマー　□ インドネシア　□ スリランカ
□ バングラデシュ　□ インド　□ タイ　□ パキスタン
□ フィリピン　□ モンゴル　□ その他

問02 留学生の日本語能力（JLPT等）について、次の（**A**）（**B**）に答えてください。

（**A**）留学生のJLPTレベルにおいて最も多い層は次のうちどれですか。[１つ選択]

○ N1相当　○ N2相当　○ N3相当　○ N4相当
○ N5相当　○ JLPT未受験（自校または日本語学校の評価等で把握）
○ その他　○ 不明（把握していない）

（**B**）留学生に占めるN2以上（相当）の割合はどの程度ですか。[１つ選択]

○ 0%　○ 1～10%　○ 11～30%　○ 31～50%
○ 51～70%　○ 71～90%　○ 91～100%　○ 不明（把握していない）

問03 講義形式の授業（座学）における留学生の学修定着度は、日本人学生と比較してどうですか。[１つ選択]

○ 日本人学生より大幅に高い　○ 日本人学生よりやや高い
○ 日本人学生とほぼ同程度　○ 日本人学生よりやや低い
○ 日本人学生より大幅に低い　○ 比較できない（母集団が小さい、比較対象がない等）

問04 講義形式の授業（座学）において、留学生の学修に影響していると思える点は何ですか。[３つ選択]

□ 専門用語の漢字・語彙の理解が障壁になる　□ 質問や発言をしたくても日本語で表現し難い
□ 予習・復習の学習習慣が不足している　□ 板書やスライドの要点整理やノート作成が難しい
□ ITの基礎学力（数学・論理等）が不足している　□ 教員の話し方や授業の進行が速い
□ 学習意欲は高い（日本人学生より高いと感じられる）　□ 日本人学生との差を特に感じない
□ 翻訳ツール等を併用しながら受講するため流れに乗れない
□ 生活リズム（アルバイト等）によって出席・集中を維持し難い
□ 日本のビジネス文化や前提知識（授業内の例示等）の想定が難しい　□ その他

問05 IT実習（プログラミング等）において、留学生の指導で苦労することは何ですか。[３つ選択]

□ 報連相が不足したり遅れたりしがちである　□ タイピング・日本語入力等が遅く作業が進み難い
□ デバッグや原因切り分けの粘り強さが不足している　□ 基礎学力（論理的思考・数学的知識等）が不足している
□ チーム開発（意見交換・役割分担・レビュー等）が難しい　□ 仕様書・指示書の読解（日本語の指示を誤解しがちである）
□ 著作権や倫理（転載や生成AIの安易な利用等）の理解が不足している
□ 変数名やコメント等の命名ルールが統一されない（ローマ字・母語・不適切な英語等）
□ 日本の現場で求められる標準化より「動きさえすればよい」を優先しがちである
□ 実習中のスマートフォン利用（調べ物以外のSNS等）が多い　□ その他

問06　IT技術の最新トレンド（AI・クラウド等）を教える際に障壁になる点は何ですか。[３つ選択]

- □ カタカナ語や英語の専門用語が多く用語の定着が難しい
- □ 母語での独学（YouTube等）と授業の進め方が噛み合わない
- □ 高度な実習に必要なPC／クラウド環境が不足している
- □ GitHubやSlack等の共同開発ツールの作法が定着し難い
- □ 最新ドキュメント（英語）の読解が難しい
- □ 著作権・ライセンスやデータ倫理の理解が不足している
- □ 最新技術の前提になる基礎学力（論理的思考・数学的知識・一般常識等）が不足している
- □ 教科書が古いため最新情報を日本語で整理・解説する負荷が大きい
- □ 分野毎に学習意欲の偏りがある（Webはやりたいがインフラは避けたい等）
- □ その他
- ○ 障壁を特に感じない

問07　留学生のITスキルの定着度を測るために何を実施していますか。[３つ選択]

- □ 小テストの頻回実施
- □ 成果物（プログラム等）の直接確認（動作・品質の評価）
- □ 資格試験（ITパスポート等）の受験促進
- □ CBT等の選択式テスト
- □ LMSログ（動画視聴・課題提出等）の確認
- □ 口頭試問（作成コードの意味を説明させる等）
- □ 相互レビュー（成果物等の学生間評価）
- □ 日本語プレゼンテーション（成果物の説明等）
- □ ペア／モブプログラミング
- □ 学外コンテスト等への参加促進
- □ その他
- ○ 特に実施していない

問08　日本のIT企業文化・職業意識を教える際に工夫していることは何ですか。[３つ選択]

- □ 期限・納期意識の指導（遅延の影響を具体化して指導）
- □ 実務家による特別講義の導入（求める人材像等の提示）
- □ ビジネスメール・チャット（Slack・Teams等）の練習
- □ 企業見学・インターンの実施（実際の現場を体験させる）
- □ やさしいIT日本語の指導（カタカナ語・専門用語の整理）
- □ PBL（課題解決型学習：企業等と連携した課題への取組）
- □ 成功事例（OB・同郷先輩等）の提示
- □ 身嗜み（清潔感等）・TPOの指導
- □ 失敗の共有・振り返り文化（ミスを隠さずに改善する姿勢）の指導
- □ ポートフォリオ作成（習得スキルを伝える資料作り）の指導
- □ その他
- ○ 特に工夫していない

問09　貴校の通常カリキュラム外で実施する補完教育について、次の（**A**）（**B**）（**C**）に答えてください。

（**A**）貴校が既に実施している補完教育はどれですか。[３つ選択]

（**B**）前問（**A**）で回答した補完教育のうち、効果が最も高いと思えるものはどれですか。[１つ選択]

（**C**）貴校がこれから実施したいと考える補完教育はどれですか。[２つ選択]

- □ 日本語補習（JLPT N1/N2対策等）
- □ ITパスポート試験対策
- □ 基本情報技術者試験等対策
- □ ビジネスマナー研修
- □ 敬語・接客用語等トレーニング
- □ 職業意識・キャリアデザイン形成支援
- □ 職場体験・インターンシップ
- □ 入学前オンライン準備教育
- □ 就職適性検査（言語領域）対策
- □ 就職適性検査（非言語領域）対策
- □ 企業連携によるPBL（課題解決学習）
- □ 日本事情（文化・社会）に関する補習
- □ その他
- ○ 特にない

問10　留学生の日本語能力の不足を補うために実践している教材面の工夫は何ですか。[３つ選択]

- □ テキストへのルビの附与
- □ やさしい日本語による授業資料の作成
- □ 写真・図を多用した解説資料の作成
- □ 授業キーワードの事前配付と予習指示
- □ 実技手順を解説した動画教材の提供
- □ デジタル教材（eラーニング等）による反復学習の推奨
- □ 専門用語の多言語対訳表の作成
- □ 書き込み式ノート／シート等の活用
- □ クイズ形式（CBT等）の確認テストの実施
- □ 翻訳機や音声変換アプリの授業内活用の承認・推奨
- □ コード解説における補足コメントの多用
- □ その他
- ○ 特に実践していない

問11　専門用語を教える際に実践している伝え方の工夫は何ですか。[3つ選択]

□ 指示を短く区切り、その度に理解の確認
□ 翻訳機・辞書等の活用促進
□ 見本や手本を示してからの復唱の促進
□ 日本人学生をチューター（バディ）として配置
□ その他
□ 写真・挿画等による図解の活用
□ 重要語を板書し、その日のポイントを漢字＋ルビで提示
□ 良い例／悪い例の並置（成功／失敗の比較）の多用
□ ジェスチャーやオノマトペの多用
○ 特に実践していない

問12　留学生の生活・学習継続のために整備している支援体制は何ですか。[3つ選択]

□ 担任教員等による定期面談
□ SNS等による相談窓口
□ 日本語能力向上支援（JLPT対策等）
□ 出欠・在籍管理（必要に応じたモニタリング）
□ 奨学金案内・学費支援（減免等を含む）
□ 保護者との連携（必要時に母国の家族と情報共有）
□ その他
□ アルバイト紹介・管理（勤務時間・トラブル対応等）
□ 生活ルール（ゴミ出し・騒音・自転車等）のオリエンテーション
□ 居住支援（保証会社紹介・入居トラブル対応等）
□ 留学生と日本人学生のペア（バディ）制度
□ 日本語学校との定期的な情報交換・連携
□ 卒業生ネットワーク（同郷先輩等への相談機会の提供等）
○ 特に整備していない

問13　留学生の孤独感・孤立を防ぐために実施している取組は何ですか。[3つ選択]

□ 留学生と日本人学生のペア（バディ）制度
□ 定期的な個人面談およびメンタルヘルスケア
□ 放課後フリースペースの提供
□ 宗教行事や祈りへの配慮
□ SNS（LINE・WhatsApp等）を活用したコミュニティの形成や見守り
□ その他
□ 母国料理・文化紹介等の国際交流イベントの開催
□ 同郷先輩（卒業生）との交流機会の提供
□ 校内掲示物の多言語化
□ 校外の地域交流参加の支援・促進
○ 特に実施していない

2.2.3　調査結果

本調査の**結果**は次の通りである。

問01　貴校に在籍する留学生（以下、単に「留学生」）の出身国・地域はどこですか。[上位３つ選択]

選択肢	n	%
ネパール	34	81.0
ベトナム	28	66.7
中国	16	38.1
ミャンマー	14	33.3
韓国	6	14.3
インドネシア	4	9.5
スリランカ	4	9.5
その他（※）	4	9.5
台湾	3	7.1
バングラデシュ	3	7.1
インド	2	4.8
タイ	2	4.8
パキスタン	2	4.8
フィリピン	2	4.8
モンゴル	2	4.8

（※〈その他〉内容：「カンボジア」「ラオス」、N=42、MA3）

問02　留学生の日本語能力（JLPT等）について、次の**（A）（B）**に答えてください。

（A）留学生のJLPTレベルにおいて最も多い層は次のうちどれですか。[１つ選択]

選択肢	n	%
N1相当	1	2.4
N2相当	12	28.6
N3相当	20	47.6
N4相当	4	9.5
N5相当	1	2.4
JLPT未受験（自校または日本語学校の評価等で把握）	2	4.8
不明（把握していない）	1	2.4
その他（※）	1	2.4

（※〈その他〉内容：「BJT J2/J3程度」、N=42、SA）

（B）留学生に占めるN2以上（相当）の割合はどの程度ですか。[1つ選択]

選択肢	n	%
0%	1	2.4
1～10%	2	4.8
11～30%	7	16.7
31～50%	12	28.6
51～70%	11	26.2
71～90%	6	14.3
91～100%	2	4.8
不明（把握していない）	1	2.4

（N=42、SA）

問03 講義形式の授業（座学）における留学生の学修定着度は、日本人学生と比較してどうですか。[1つ選択]

選択肢	n	%
日本人学生より大幅に高い	1	2.4
日本人学生よりやや高い	4	9.5
日本人学生とほぼ同程度	9	21.4
日本人学生よりやや低い	18	42.9
日本人学生より大幅に低い	8	19.0
比較できない（母集団が小さい、比較対象がない等）	2	4.8

（N=42、SA）

問04 講義形式の授業（座学）において、留学生の学修に影響していると思える点は何ですか。[3つ選択]

選択肢	n	%
専門用語の漢字・語彙の理解が障壁になる	19	45.2
質問や発言をしたくても日本語で表現し難い	17	40.5
予習・復習の学習習慣が不足している	16	38.1
生活リズム（アルバイト等）によって出席・集中を維持し難い	16	38.1
板書やスライドの要点整理やノート作成が難しい	14	33.3
ITの基礎学力（数学・論理等）が不足している	14	33.3
教員の話し方や授業の進行が速い	9	21.4
日本のビジネス文化や前提知識（授業内の例示等）の想定が難しい	7	16.7
学習意欲は高い（日本人学生より高いと感じられる）	6	14.3
翻訳ツール等を併用しながら受講するため流れに乗れない	4	9.5
日本人学生との差を特に感じない	2	4.8
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容：「設問意図の解釈に時間を要する」「PC（ファイル管理・IME設定等）の差」N=42、MA3）

問05　IT実習（プログラミング等）において、留学生の指導で苦労することは何ですか。［３つ選択］

選択肢	n	%
仕様書・指示書の読解（日本語の指示を誤解しがちである）	22	52.4
デバッグや原因切り分けの粘り強さが不足している	19	45.2
報連相が不足したり遅れたりしがちである	17	40.5
タイピング・日本語入力等が遅く作業が進み難い	14	33.3
基礎学力（論理的思考・数学的知識等）が不足している	13	31.0
チーム開発（意見交換・役割分担・レビュー等）が難しい	12	28.6
著作権や倫理（転載や生成AIの安易な利用等）の理解が不足している	11	26.2
変数名やコメント等の命名ルールが統一されない（ローマ字・母語・不適切な英語等）	9	21.4
日本の現場で求められる標準化より「動きさえすればよい」を優先しがちである	4	9.5
実習中のスマートフォン利用（調べ物以外のSNS等）が多い	3	7.1
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容：「開発環境セットアップ」「共同作業や盗用境界の理解」、N=42、MA3）

問06　IT技術の最新トレンド（AI・クラウド等）を教える際に障壁になる点は何ですか。［３つ選択］

選択肢	n	%
カタカナ語や英語の専門用語が多く用語の定着が難しい	18	42.9
最新技術の前提になる基礎学力（論理的思考・数学的知識・一般常識等）が不足している	17	40.5
教科書が古いため最新情報を日本語で整理・解説する負荷が大きい	16	38.1
高度な実習に必要なPC／クラウド環境が不足している	14	33.3
GitHubやSlack等の共同開発ツールの作法が定着し難い	13	31.0
最新ドキュメント（英語）の読解が難しい	12	28.6
分野毎に学習意欲の偏りがある（Webはやりたいがインフラは避けたい等）	11	26.2
著作権・ライセンスやデータ倫理の理解が不足している	9	21.4
母語での独学（YouTube等）と授業の進め方が噛み合わない	8	19.0
障壁を特に感じない	4	9.5
その他（※）	4	9.5

（※〈その他〉内容：「アカウント管理（本人確認等）」「校内の生成AI利用方針の未整備」等、N=42、MA3）

問07 留学生のITスキルの定着度を測るために何を実施していますか。[3つ選択]

選択肢	n	%
成果物（プログラム等）の直接確認（動作・品質の評価）	22	52.4
小テストの頻回実施	17	40.5
資格試験（ITパスポート等）の受験促進	14	33.3
CBT等の選択式テスト	13	31.0
LMSログ（動画視聴・課題提出等）の確認	12	28.6
口頭試問（作成コードの意味を説明させる等）	11	26.2
相互レビュー（成果物等の学生間評価）	9	21.4
日本語プレゼンテーション（成果物の説明等）	8	19.0
ペア／モブプログラミング	7	16.7
学外コンテスト等への参加促進	6	14.3
特に実施していない	4	9.5
その他（※）	3	7.1

（※〈その他〉内容例：「オンライン自動採点」「外部ベンダー試験（言語別試験）の受験促進」等、N=42、MA3）

問08 日本のIT企業文化・職業意識を教える際に工夫していることは何ですか。[3つ選択]

選択肢	n	%
期限・納期意識の指導（遅延の影響を具体化して指導）	16	38.1
実務家による特別講義の導入（求める人材像等の提示）	14	33.3
ビジネスメール・チャット（Slack・Teams等）の練習	14	33.3
企業見学・インターンの実施（実際の現場を体験させる）	13	31.0
やさしいIT日本語の指導（カタカナ語・専門用語の整理）	13	31.0
PBL（課題解決型学習：企業等と連携した課題への取組）	12	28.6
失敗の共有・振り返り文化（ミスを隠さずに改善する姿勢）の指導	11	26.2
ポートフォリオ作成（習得スキルを伝える資料作り）の指導	11	26.2
成功事例（OB・同郷先輩等）の提示	9	21.4
身嗜み（清潔感等）・TPOの指導	8	19.0
特に工夫していない	3	7.1
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容例：「挨拶の練習」「模擬打合せの実施」N=42、MA3）

問09　貴校の通常カリキュラム外で実施する補完教育について、次の**（A）（B）（C）**に答えてください。

（A）貴校が既に実施している補完教育はどれですか。[３つ選択]

（B）前問**（A）**で回答した補完教育のうち、効果が最も高いと思えるものはどれですか。[１つ選択]

（C）貴校がこれから実施したいと考える補完教育はどれですか。[２つ選択]

選択肢	（A）		（B）		（C）	
	n	%	n	%	n	%
日本語補習（JLPT N1/N2対策等）	26	61.9	9	21.4	9	21.4
ITパスポート試験対策	19	45.2	7	16.7	9	21.4
基本情報技術者試験等対策	14	33.3	4	9.5	7	16.7
ビジネスマナー研修	12	28.6	4	9.5	6	14.3
敬語・接客用語等トレーニング	8	19.0	1	2.4	4	9.5
職業意識・キャリアデザイン形成支援	7	16.7	3	7.1	8	19.0
職場体験・インターンシップ	7	16.7	2	4.8	6	14.3
入学前オンライン準備教育	7	16.7	3	7.1	7	16.7
就職適性検査（言語領域）対策	6	14.3	2	4.8	6	14.3
就職適性検査（非言語領域）対策	6	14.3	1	2.4	7	16.7
企業連携によるPBL（課題解決学習）	6	14.3	3	7.1	7	16.7
日本事情（文化・社会）に関する補習	4	9.5	1	2.4	3	7.1
特にない	2	4.8	1	2.4	2	4.8
その他（※）	2	4.8	1	2.4	3	7.1

（※〈その他〉内容例：「在留資格手続ガイダンス」「情報セキュリティ／コンプライアンス研修」「生成AIリテラシー研修」、N=42、（A）MA3・（B）SA・（C）MA2）

問10　留学生の日本語能力の不足を補うために実践している教材面の工夫は何ですか。[３つ選択]

選択肢	n	%
テキストへのルビの附与	16	38.1
やさしい日本語による授業資料の作成	16	38.1
写真・図を多用した解説資料の作成	13	31.0
授業キーワードの事前配付と予習指示	12	28.6
実技手順を解説した動画教材の提供	11	26.2
デジタル教材（eラーニング等）による反復学習の推奨	11	26.2
専門用語の多言語対訳表の作成	9	21.4
書き込み式ノート／シート等の活用	9	21.4
翻訳機や音声変換アプリの授業内活用の承認・推奨	9	21.4
クイズ形式（CBT等）の確認テストの実施	8	19.0
コード解説における補足コメントの多用	7	16.7
特に実践していない	3	7.1
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容例：「用語カード・単語帳アプリの活用」「多言語字幕付き映像教材の利用」、N=42、MA3）

問11　専門用語を教える際に実践している伝え方の工夫は何ですか。[3つ選択]

選択肢	n	%
指示を短く区切り、その度に理解の確認	22	52.4
写真・挿画等による図解の活用	18	42.9
重要語を板書し、その日のポイントを漢字＋ルビで提示	17	40.5
翻訳機・辞書等の活用促進	16	38.1
見本や手本を示してからの復唱の促進	14	33.3
良い例／悪い例の並置（成功／失敗の比較）の多用	14	33.3
日本人学生をチューター（バディ）として配置	11	26.2
ジェスチャーやオノマトペの多用	9	21.4
特に実践していない	3	7.1
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容例：「用語を語源や接頭辞／接尾辞で解説」「反復用ミニクイズ（即時フィードバック）の実施」、N=42、MA3）

問12　留学生の生活・学習継続のために整備している支援体制は何ですか。[3つ選択]

選択肢	n	%
担任教員等による定期面談	16	38.1
アルバイト紹介・管理（勤務時間・トラブル対応等）	13	31.0
SNS等による相談窓口	12	28.6
生活ルール（ゴミ出し・騒音・自転車等）のオリエンテーション	12	28.6
日本語能力向上支援（JLPT対策等）	12	28.6
居住支援（保証会社紹介・入居トラブル対応等）	11	26.2
出欠・在籍管理（必要に応じたモニタリング）	11	26.2
留学生と日本人学生のペア（バディ）制度	9	21.4
奨学金案内・学費支援（減免等を含む）	8	19.0
日本語学校との定期的な情報交換・連携	7	16.7
卒業生ネットワーク（同郷先輩等への相談機会の提供等）	6	14.3
保護者との連携（必要時に母国の家族と情報共有）	4	9.5
その他（※）	3	7.1
特に整備していない	2	4.8

（※〈その他〉内容例：「在留資格手続相談会の実施」「医療機関受診の支援（同行等）」、N=42、MA3）

問13　留学生の孤独感・孤立を防ぐために実施している取組は何ですか。[３つ選択]

選択肢	n	%
留学生と日本人学生のペア（バディ）制度	21	50.0
母国料理・文化紹介等の国際交流イベントの開催	18	42.9
SNS（LINE・WhatsApp等）を活用したコミュニティの形成や見守り	17	40.5
定期的な個人面談およびメンタルヘルスケア	16	38.1
同郷先輩（卒業生）との交流機会の提供	14	33.3
放課後フリースペースの提供	12	28.6
校内掲示物の多言語化	9	21.4
宗教行事や祈りへの配慮	7	16.7
校外の地域交流参加の支援・促進	7	16.7
特に実施していない	3	7.1
その他（※）	2	4.8

（※〈その他〉内容例：「留学生宅訪問」「体育祭・文化祭・校内コンテスト等の開催による共同作業促進」、N=42、MA3）

2.2.4　調査考察

回答者は、全国のIT留学生受入れ専修学校42校である。

問01および複数の設問は上位選択式であるが、そこでの各割合（%）は、当該選択肢を上位に選んだ学校の割合を表すものであり、留学生数の構成比を直接に示すものでない。

問01（上位３つ選択）から、ネパールを上位３国として挙げる学校が81.0%で、これにベトナム（66.7%）・中国（38.1%）・ミャンマー（33.3%）が続くという受入れ国の偏在傾向が判る。

問02（A）からは、留学生のJLPTレベルの最多層がN3相当である学校が47.6%で最多であり、N2相当が28.6%で次点であること、同**（B）**からは、N2以上（相当）の割合が31～50%の学校が28.6%、51～70%が26.2%であり、一定割合のN2以上を抱える学校が多数派である一方で、最多層がN3相当である学校が最も多いという併存状態も確認できる。そのため、日本語能力の分布は、単一の水準に収斂せず、一定の幅を持って学校間に存在していると言える。

問03から判るのは、講義形式の授業（座学）における学修定着度を日本人学生と比較して「低い」と回答した学校が合計61.9%（「やや低い」42.9% ＋「大幅に低い」19.0%）を占める点である。

問04（上位３つ選択）からは、座学の学修に影響する要因として、専門用語の漢字・語彙の理解が障壁になること（45.2%）と質問や発言を日本語で表現し難いこと（40.5%）が上位に位置し、予習・復習の学習習慣

不足（38.1%）およびアルバイト等に起因する生活リズムの課題（38.1%）が並ぶことが判る。

この２問から、座学の定着は、言語面の負荷に加え、学習行動および生活要因とも連動していると言える。

尚、本書では便宜上、専門教育を日本語で受講する際の一つの目安として参照されるN2以上を用いて記述するが、それはあくまで外部的な基準の援用であり、**問02**の結果から規範として導出されたものでない。

実習については、「定着度」を直接測定していないため、**問05**（上位３つ選択）の「指導上の困難」によって実態を確認することが適切であろう。そこでは、仕様書・指示書の読解（52.4%）が最上位であり、デバッグや原因切り分けの粘り強さの不足（45.2%）および報連相の不足・遅れ（40.5%）が続く。つまり、実習では、技術要素だけでなく、指示理解・作業継続・進捗共有等の行動様式に関る課題が指導上の困難の上位として現れているということである。

問06（上位３つ選択）からは、AI・クラウド等の最新トレンド教育において、カタカナ語や英語の専門用語の定着困難（42.9%）、前提になる基礎学力不足（40.5%）、教材更新の負荷（38.1%）が上位であり、環境不足（33.3%）や共同開発ツールの作法（31.0%）も高位にあることが判る。

評価手法について**問07**（上位３つ選択）から判るのは、成果物の直接確認（52.4%）と小テストの頻回実施（40.5%）が上位であり、これに資格試験の受験促進（33.3%）等が続く点である。

職業意識の指導について**問08**（上位３つ選択）から判るのは、期限・納期意識の指導（38.1%）が最上位であり、これに実務家講義（33.3%）およびビジネスメール・チャットの練習（33.3%）が並ぶ点である。

補完教育について、**問09（A）**からは、日本語補習（61.9%）とITパスポート対策（45.2%）が実施中として上位であり、同**（B）**からは、効果が最も高い教育として日本語補習（21.4%）とITパスポート対策（16.7%）が上位に挙げられていることが判る。同**（C）**からは、今後実施したい指導として日本語補習とITパスポート対策が各21.4%で並び、これにキャリア形成支援が19.0%で続くという需要の分散を確認できる。

教材面の工夫について**問10**（上位３つ選択）から判るのは、ルビ付与（38.1%）およびやさしい日本語による授業資料作成（38.1%）が同率上位であり、写真・図を多用した解説資料（31.0%）が続く点である。

専門用語の伝え方について**問11**（上位３つ選択）からは、指示を短く区切り理解を頻繁に確認する方法が52.4%で最上位であり、これに図解の活用（42.9%）と重要語の板書とルビ提示（40.5%）が続くことが判る。

この２問から、現場では視覚的補完と構造的伝達によって言語負荷を下げる「言語のバリアフリー化」を志向する対応が上位選択として表れていることを確認できる。

生活支援について**問12**（上位３つ選択）から判るのは、担任等による定期面談（38.1%）が上位であり、これにアルバイト紹介・管理（31.0%）やSNS相談窓口（28.6%）が続く点である。

孤立防止について**問13**（上位３つ選択）からは、バディ制度（50.0%）が最上位であり、これに国際交流イベント（42.9%）とSNSを用いたコミュニティ形成・見守り（40.5%）が続くことが判る。

この２問から、IT専修学校は、技能教育に加え、学修継続を支える生活基盤と対人関係の維持を含む複合的機能を担う様相が提示されている。

本調査の結果は総じて、留学生教育の実態が「言語負荷の調整」「学修行動の定着」「実習における指示理解と作業継続」「就業場面を想定した行動様式」「生活支援と孤立防止」という複数の要素の同時成立として観察されることを、各設問の分布として示している。

2.3　調査⑤ IT留学予備生キャリア意識調査

調査⑤は**IT留学予備生キャリア意識調査**である。

これは、IT分野への進学・就職を希望するアジア学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.3.1　調査仕様

本調査の**仕様**（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

名　称	IT留学予備生キャリア意識調査
目　的	IT分野への進学・就職を希望するアジア学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。
対　象	在アジアの日本留学希望学生119人（中国49人・韓国29人・ベトナム41人）
手　法	質問紙法＆ウェブ回答
項　目	日本留学・就職意向、日本企業・IT職・専修学校のイメージ、職業キャリア概念、キャリアビジョン、職業観チェック、日本留学・就職の不安・課題 等

2.3.2　調査内容

本調査における具体的な質問項目は次の15項である。

回答者校における――

① 日本留学の意向　② 日本就職の意向　③ 日本語能力の自己評価

④ IT基礎・デジタル基礎の学習経験（自己評価）　⑤「仕事」の認識　⑥ 日本留学の目的

⑦「専門学校」「大学」の印象　⑧ 日本の企業・職場の印象　⑨ ５～７年後に希望する進路・役割

⑩ 関心ある学び・活動テーマ　⑪ 日本留学・就職の不安・課題　⑫（ケース問題１）緊迫業務への対応

⑬（ケース問題２）ミスによる業務遅滞への対応　⑭（ケース問題３）初対面取引先とのオンライン面談

⑮「仕事」において重視する職業意識

これに基づいて作成した**調査票**を以下に掲載する。

▼【調査票】調査⑤ IT留学予備生キャリア意識調査

令和７年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業――外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成･就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

IT留学予備生キャリア意識調査

問01 あなたは日本に留学したいと思いますか。[１つ選択]

○ １年以内に留学したい ○ ２年以内に留学したい ○ 検討中（時期未定） ○ 現時点で予定なし

問02 あなたは日本で就職したいと思いますか。[１つ選択]

○ ５年以上働きたい ○ １～４年程度働きたい ○ 検討中（未定） ○ 日本での就職を考えていない

問03 あなたの日本語能力は（自己評価で）どの程度ですか。[１つ選択]

○ JLPT N3以上相当 ○ JLPT N4相当 ○ JLPT N5相当 ○ 未学習・相当なし

問04 あなたのIT基礎・デジタル基礎の学習経験は（自己評価で）どの程度ですか。[１つ選択]

○ 実務に活かせる知識・スキルがある ○ 基礎レベルは概ね学習済み
○ 入門レベル ○ ほぼ未経験

問05 あなたにとって「仕事」は何ですか。[３つまで選択]

□ 自己実現・成長 □ 専門性を磨く学び □ 競争と挑戦 □ 生活や家族を支える手段
□ 生活との調和 □ 起業・価値創出 □ 国際経験・越境 □ 地位・安定・福利の実現
□ 協働と信頼の場 □ 将来の収入・生活の安定 □ その他 ○ 特にない

問06 あなたが日本で学びたい主な目的は何ですか。[３つまで選択]

□ 語学・国際経験の向上 □ 進路の探索・見極め □ 日本で中長期に働く準備 □ 将来の収入・生活の安定
□ 日本での就職に直結する技能の習得 □ 帰国後の就職・昇進に活かすため
□ 日本の職業文化の理解 □ 産学の人脈形成 □ 起業準備 □ 学位・資格等の社会的証明
□ その他 ○ 特にない

問07 あなたが日本の「専門学校」「大学」に抱く印象は各々どのようなものですか。[各３つまで選択]

専門学校

□ 実務直結で就職に強い □ 資格取得に強い □ 就ける職種の幅が広い □ 指導が綿密で少人数
□ 研究・理論基盤が強い □ 学位の国際認知が高い □ 企業連携・現場体験が多い
□ 期間が短く費用対効果が高い □ 進学・交換留学機会が多い
□ 社会的ブランド・知名度が高い □ その他 ○ 特にない

大　学

□ 実務直結で就職に強い □ 資格取得に強い □ 就ける職種の幅が広い □ 指導が綿密で少人数
□ 研究・理論基盤が強い □ 学位の国際認知が高い □ 企業連携・現場体験が多い
□ 期間が短く費用対効果が高い □ 進学・交換留学機会が多い
□ 社会的ブランド・知名度が高い □ その他 ○ 特にない

問08　あなたが日本の企業や職場に抱く印象はどのようなものですか。[３つまで選択]

□ 品質最優先で慎重　□ 長期雇用・安定志向　□ 残業が多い　□ 新技術の導入に慎重
□ 年功・上下関係が比較的強い　□ セキュリティ・法令遵守が厳格
□ リモート/ハイブリッド勤務が浸透している　□ 英語だけでは難しい場面が多い
□ 外国人にもリーダーになれる機会がある　□ 転職が一般的でキャリアアップに繋がる
□ その他　○ 特にない

問09　あなたが５～７年後に取り組んでいたい主な進路・役割は何ですか。[３つまで選択]

□ 日本の大手企業で働く　□ フリーランス・副業併用
□ デザイン/ゲーム/CG/Web分野　□ 帰国就職/国際機関勤務
□ 日本の中小企業・スタートアップで働く　□ 小売/観光/サービス分野
□ データサイエンス/AI分野　□ 研究・教育（大学院進学を含む）
□ ものづくり/製造/ロボティクス分野　□ 起業/家業継承
□ その他　○ 特にない

問10　あなたが今後、特に強い関心がある学び・活動テーマは何ですか。[３つまで選択]

□ 日本語コミュニケーション（ビジネスを含む）　□ チームワーク・リーダーシップ
□ 問題解決力・論理的思考　□ 異文化理解・対人作法
□ キャリアデザイン（目標設定・自己分析）　□ タイムマネジメント・自己管理
□ デジタル基礎（ITリテラシー・ツール活用）　□ プロジェクトの進め方（役割分担・合意形成）
□ プレゼンテーション・資料作成・文章力　□ データ・AIの基礎理解
□ その他　○ 特にない

問11　日本への留学や日本での就職について、あなたが抱く不安や課題は何ですか。[３つまで選択]

□ 学費・生活費　□ 住居・生活開始　□ 差別・ハラスメント　□ 奨学金の獲得
□ 在留資格・手続き　□ 働き方・労働時間　□ 日本語能力（JLPT等）　□ 文化・コミュニケーション
□ 学習基礎（数学・プログラミング等）　□ 就職活動の進め方（エントリーシート・面接・適性検査等）
□ その他　○ 特にない

問12　**【想像してください】**期限まで３日間しかない仕事があります。しかし、その仕事の要件が一部曖昧で、先輩も多忙です。このような場合、あなたは最初にどう動きますか。最も近いものを選んでください。[１つ選択]

○ 進められる作業を開始し、未確定事項のリストを送り、確認を依頼する。
○ 不明点と選択肢を整理し、短時間ミーティングを設定する。
○ 最小機能の試作品を取り敢えず早く出し、方向性を擦り合せる。
○ 先輩以外も含む関係者に当って情報を収集し、体制を整えて着手する。

問13　**【想像してください】**自分のミスで仕事が遅れています。あなたはどう動きますか。最も近いものを選んでください。[１つ選択]

○ 回復見込みを予測し、手戻り回避の修正を施した上で、状況を共有する。
○ ミスの影響範囲を提示し、代替案を作成した上で、回復計画を即共有する。
○ リーダーに短時間ミーティングを申し出、原因の整理と判断の相談を行う。
○ 優先順位を見直し、スケジュール調整を提案する。

問14 **【想像してください】**初対面の人（取引先等）と15分のオンライン面談を行います。短時間で信頼を得るために、あなたはどう進めますか。最も近いものを選んでください。[1つ選択]

○ 資料（目的・決定事項等）を事前に送付し、当日は合意形成を目指す。
○ 面談の最初に期待や制約を確認し、役割や提供価値等を簡単に共有する。
○ 面談の冒頭1分で自己紹介し、背景や成功条件を確認した上で、本題に入る。
○ この15分間で先に仕事内容・期限・連絡手段等について合意形成を図り、詳細は後日に文書で送る。

問15 「仕事」について、あなたが特に重視する職業意識は何ですか。[5つまで選択]

□ 責任感	□ 誠実	□ チームワーク	□ 協調性
□ 論理思考	□ 礼節	□ 探究心	□ 対人作法
□ モチベーション	□ 公平性・公正性	□ 自律	□ 使命感
□ 倫理観	□ リーダーシップ	□ 帰属意識	□ セルフマネジメント力
□ チャレンジ精神	□ フォロワーシップ	□ 社会貢献	□ 忠誠心
□ その他			

2.3.3　調査結果

本調査の**結果**は次の通りである。

問01　あなたは日本に留学したいと思いますか。[１つ選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
１年以内に留学したい	21	17.6	1	2.0	18	62.1	2	4.9
２年以内に留学したい	31	26.1	4	8.2	5	17.2	22	53.7
検討中（時期未定）	46	38.7	33	67.3	5	17.2	8	19.5
現時点で予定なし	20	16.8	10	20.4	1	3.4	9	22.0

（N=全体118・中48・韓29・越41、SA）

問02　あなたは日本で就職したいと思いますか。[１つ選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
５年以上働きたい	43	36.1	7	14.3	19	65.5	17	41.5
１～４年程度働きたい	27	22.7	9	18.4	9	31.0	9	22.0
検討中（未定）	40	33.6	30	61.2	1	3.4	9	22.0
日本での就職を考えていない	9	7.6	3	6.1	0	0.0	6	14.6

（N=全体119・中49・韓29・越41、SA）

問03　あなたの日本語能力は（自己評価で）どの程度ですか。[１つ選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
JLPT N3以上相当	51	42.9	25	51.0	23	79.3	3	7.3
JLPT N4相当	19	16.0	9	18.4	3	10.3	7	17.1
JLPT N5相当	27	22.7	10	20.4	3	10.3	14	34.1
未学習・相当なし	21	17.6	5	10.2	0	0.0	16	39.0

（N=全体118・中49・韓29・越40、SA）

問04　あなたのIT基礎・デジタル基礎の学習経験は（自己評価で）どの程度ですか。[１つ選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
実務に活かせる知識・スキルがある	5	4.2	0	0.0	3	10.3	2	4.9
基礎レベルは概ね学習済み	15	12.6	4	8.2	5	17.2	6	14.6
入門レベル	30	25.2	13	26.5	10	34.5	7	17.1
ほぼ未経験	68	57.1	31	63.3	11	37.9	26	63.4

（N=全体118・中48・韓29・越41、SA）

問05 あなたにとって「仕事」は何ですか。[3つまで選択]

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
生活や家族を支える手段	74	62.2	34	69.4	15	51.7	25	61.0
自己実現・成長	72	60.5	31	63.3	20	69.0	21	51.2
専門性を磨く学び	48	40.3	16	32.7	16	55.2	16	39.0
競争と挑戦	22	18.5	4	8.2	8	27.6	10	24.4
生活との調和	22	18.5	12	24.5	8	27.6	2	4.9
地位・安定・福利の実現	19	16.0	12	24.5	2	6.9	5	12.2
起業・価値創出	19	16.0	6	12.2	3	10.3	10	24.4
国際経験・越境	18	15.1	4	8.2	4	13.8	10	24.4
将来の収入・生活の安定	17	14.3	3	6.1	5	17.2	9	22.0
協働と信頼の場	11	9.2	2	4.1	4	13.8	5	12.2
特にない	3	2.5	1	2.0	0	0.0	2	4.9
その他（※）	1	0.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0

（※〈その他〉内容：「家族の期待に応えるための基盤」、N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問06 あなたが日本で学びたい主な目的は何ですか。[3つまで選択]

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
将来の収入・生活の安定	68	57.1	38	77.6	14	48.3	16	39.0
語学・国際経験の向上	50	42.0	19	38.8	13	44.8	18	43.9
日本での就職に直結する技能の習得	41	34.5	12	24.5	22	75.9	7	17.1
進路の探索・見極め	36	30.3	11	22.4	4	13.8	21	51.2
日本で中長期に働く準備	32	26.9	12	24.5	14	48.3	6	14.6
帰国後の就職・昇進に活かすため	25	21.0	10	20.4	3	10.3	12	29.3
日本の職業文化の理解	25	21.0	7	14.3	9	31.0	9	22.0
学位・資格等の社会的証明	21	17.6	11	22.4	3	10.3	7	17.1
産学の人脈形成	13	10.9	3	6.1	4	13.8	6	14.6
特にない	5	4.2	1	2.0	0	0.0	4	9.8
起業準備	3	2.5	1	2.0	1	3.4	1	2.4
その他（※）	1	0.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0

（※〈その他〉内容：「家族を日本に招くための生活準備」、N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問07　あなたが日本の「専門学校」「大学」に抱く印象は各々どのようなものですか。[各３つまで選択]

専門学校

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
実務直結で就職に強い	68	57.1	31	63.3	24	82.8	13	31.7
企業連携・現場体験が多い	62	52.1	21	42.9	18	62.1	23	56.1
進学・交換留学機会が多い	33	27.7	9	18.4	8	27.6	16	39.0
期間が短く費用対効果が高い	28	23.5	14	28.6	8	27.6	6	14.6
資格取得に強い	27	22.7	15	30.6	12	41.4	0	0.0
就ける職種の幅が広い	20	16.8	6	12.2	2	6.9	12	29.3
研究・理論基盤が強い	17	14.3	3	6.1	2	6.9	12	29.3
指導が綿密で少人数	12	10.1	3	6.1	8	27.6	1	2.4
学位の国際認知が高い	11	9.2	3	6.1	1	3.4	7	17.1
特にない	10	8.4	3	6.1	2	6.9	5	12.2
社会的ブランド・知名度が高い	9	7.6	5	10.2	0	0.0	4	9.8
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

（N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

大　　学

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
企業連携・現場体験が多い	46	38.7	13	26.5	11	37.9	22	53.7
進学・交換留学機会が多い	45	37.8	15	30.6	12	41.4	18	43.9
学位の国際認知が高い	43	36.1	15	30.6	14	48.3	14	34.1
実務直結で就職に強い	37	31.1	15	30.6	8	27.6	14	34.1
研究・理論基盤が強い	33	27.7	5	10.2	16	55.2	12	29.3
就ける職種の幅が広い	32	26.9	14	28.6	8	27.6	10	24.4
資格取得に強い	20	16.8	13	26.5	6	20.7	1	2.4
社会的ブランド・知名度が高い	18	15.1	7	14.3	5	17.2	6	14.6
指導が綿密で少人数	12	10.1	8	16.3	2	6.9	2	4.9
期間が短く費用対効果が高い	12	10.1	5	10.2	1	3.4	6	14.6
特にない	8	6.7	4	8.2	2	6.9	2	4.9
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

（N=全体119・中49・韓29・越41、SA）

問08 あなたが日本の企業や職場に抱く印象はどのようなものですか。[3つまで選択]

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
品質最優先で慎重	63	52.9	24	49.0	12	41.4	27	65.9
長期雇用・安定志向	59	49.6	23	46.9	22	75.9	14	34.1
年功・上下関係が比較的強い	41	34.5	28	57.1	8	27.6	5	12.2
セキュリティ・法令遵守が厳格	35	29.4	9	18.4	12	41.4	14	34.1
リモート/ハイブリッド勤務が浸透している	27	22.7	9	18.4	6	20.7	12	29.3
残業が多い	22	18.5	7	14.3	9	31.0	6	14.6
新技術の導入に慎重	16	13.4	8	16.3	2	6.9	6	14.6
英語だけでは難しい場面が多い	15	12.6	2	4.1	6	20.7	7	17.1
外国人にもリーダーになれる機会がある	14	11.8	6	12.2	5	17.2	3	7.3
転職が一般的でキャリアアップに繋がる	8	6.7	2	4.1	3	10.3	3	7.3
特にない	4	3.4	0	0.0	2	6.9	2	4.9
その他（※）	1	0.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0

（※〈その他〉内容：「文書・記録の管理が徹底されてトレーサビリティが高い」、N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問09 あなたが5～7年後に取り組んでいたい主な進路・役割は何ですか。[3つまで選択]

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
日本の大手企業で働く	53	44.5	22	44.9	15	51.7	16	39.0
フリーランス・副業併用	44	37.0	23	46.9	13	44.8	8	19.5
デザイン/ゲーム/CG/Web分野	40	33.6	9	18.4	14	48.3	17	41.5
帰国就職/国際機関勤務	25	21.0	11	22.4	4	13.8	10	24.4
日本の中小企業・スタートアップで働く	24	20.2	9	18.4	10	34.5	5	12.2
小売/観光/サービス分野	23	19.3	10	20.4	7	24.1	6	14.6
データサイエンス/AI分野	20	16.8	6	12.2	6	20.7	8	19.5
研究・教育（大学院進学を含む）	16	13.4	8	16.3	2	6.9	6	14.6
特にない	14	11.8	5	10.2	3	10.3	6	14.6
ものづくり/製造/ロボティクス分野	13	10.9	3	6.1	5	17.2	5	12.2
起業/家業継承	9	7.6	3	6.1	1	3.4	5	12.2
その他（※）	6	5.0	2	4.1	3	10.3	1	2.4

（※〈その他〉内容例：「コミュニティ運営」「自国企業の対日展開マネジャー」「ITコンサルタント」等、
N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問10　あなたが今後、特に強い関心がある学び・活動テーマは何ですか。[３つまで選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
日本語コミュニケーション（ビジネスを含む）	75	63.0	31	63.3	23	79.3	21	51.2
チームワーク・リーダーシップ	38	31.9	13	26.5	11	37.9	14	34.1
問題解決力・論理的思考	38	31.9	17	34.7	6	20.7	15	36.6
異文化理解・対人作法	33	27.7	15	30.6	5	17.2	13	31.7
キャリアデザイン（目標設定・自己分析）	27	22.7	12	24.5	7	24.1	8	19.5
タイムマネジメント・自己管理	25	21.0	12	24.5	6	20.7	7	17.1
デジタル基礎（ITリテラシー・ツール活用）	23	19.3	7	14.3	7	24.1	9	22.0
プロジェクトの進め方（役割分担・合意形成）	17	14.3	2	4.1	8	27.6	7	17.1
プレゼンテーション・資料作成・文章力	16	13.4	4	8.2	10	34.5	2	4.9
データ・AIの基礎理解	13	10.9	5	10.2	2	6.9	6	14.6
特にない	5	4.2	2	4.1	0	0.0	3	7.3
その他（※）	2	1.7	2	4.1	0	0.0	0	0.0

（※〈その他〉内容：「就活スキル（履歴書・面接・マナー等）」「ポートフォリオ作成」、
N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問11　日本への留学や日本での就職について、あなたが抱く不安や課題は何ですか。[３つまで選択]

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
学費・生活費	65	54.6	34	69.4	13	44.8	18	43.9
日本語能力（JLPT等）	57	47.9	27	55.1	12	41.4	18	43.9
学習基礎（数学・プログラミング等）	37	31.1	16	32.7	10	34.5	11	26.8
就職活動の進め方（エントリーシート・面接・適性検査等）	37	31.1	8	16.3	20	69.0	9	22.0
文化・コミュニケーション	32	26.9	12	24.5	6	20.7	14	34.1
住居・生活開始	28	23.5	10	20.4	13	44.8	5	12.2
差別・ハラスメント	18	15.1	8	16.3	3	10.3	7	17.1
奨学金の獲得	17	14.3	5	10.2	2	6.9	10	24.4
在留資格・手続き	13	10.9	4	8.2	5	17.2	4	9.8
働き方・労働時間	7	5.9	3	6.1	1	3.4	3	7.3
特にない	5	4.2	1	2.0	0	0.0	4	9.8
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

（N=全体119・中49・韓29・越41、MA3）

問12 **【想像してください】**期限まで３日間しかない仕事があります。しかし、その仕事の要件が一部曖昧で、先輩も多忙です。このような場合、あなたは最初にどう動きますか。最も近いものを選んでください。

［１つ選択］

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
進められる作業を開始し、未確定事項のリストを送り、確認を依頼する。	70	58.8	35	71.4	19	65.5	16	39.0
不明点と選択肢を整理し、短時間ミーティングを設定する。	20	16.8	6	12.2	4	13.8	10	24.4
最小機能の試作品を取り敢えず早く出し、方向性を擦り合せる。	7	5.9	3	6.1	1	3.4	3	7.3
先輩以外も含む関係者に当って情報を収集し、体制を整えて着手する。	20	16.8	3	6.1	5	17.2	12	29.3

（N=全体117・中47・韓29・越41、SA）

問13 **【想像してください】**自分のミスで仕事が遅れています。あなたはどう動きますか。最も近いものを選んでください。［１つ選択］

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
回復見込みを予測し、手戻り回避の修正を施した上で、状況を共有する。	19	16.0	9	18.4	5	17.2	5	12.2
ミスの影響範囲を提示し、代替案を作成した上で、回復計画を即共有する。	58	48.7	26	53.1	9	31.0	23	56.1
リーダーに短時間ミーティングを申し出、原因の整理と判断の相談を行う。	32	26.9	10	20.4	9	31.0	13	31.7
優先順位を見直し、スケジュール調整を提案する。	8	6.7	2	4.1	6	20.7	0	0.0

（N=全体117・中47・韓29・越41、SA）

問14 **【想像してください】**初対面の人（取引先等）と15分のオンライン面談を行います。短時間で信頼を得るために、あなたはどう進めますか。最も近いものを選んでください。［１つ選択］

選択肢	全体		中国		韓国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
資料（目的・決定事項等）を事前に送付し、当日は合意形成を目指す。	32	26.9	9	18.4	12	41.4	11	26.8
面談の最初に期待や制約を確認し、役割や提供価値等を簡単に共有する。	43	36.1	30	61.2	7	24.1	6	14.6
面談の冒頭１分で自己紹介し、背景や成功条件を確認した上で、本題に入る。	20	16.8	2	4.1	6	20.7	12	29.3
この15分間で先に仕事内容・期限・連絡手段等について合意形成を図り、詳細は後日に文書で送る。	21	17.6	6	12.2	4	13.8	11	26.8

（N=全体116・中47・韓29・越40、SA）

問15　「仕事」について、あなたが特に重視する職業意識は何ですか。［５つまで選択］

選択肢	全　体		中　国		韓　国		ベトナム	
	n	%	n	%	n	%	n	%
責任感	83	69.7	32	65.3	23	79.3	28	68.3
誠実	55	46.2	21	42.9	19	65.5	15	36.6
チームワーク	53	44.5	25	51.0	18	62.1	10	24.4
協調性	42	35.3	17	34.7	12	41.4	13	31.7
論理思考	32	26.9	12	24.5	7	24.1	13	31.7
礼節	31	26.1	8	16.3	11	37.9	12	29.3
探究心	27	22.7	2	4.1	3	10.3	22	53.7
対人作法	25	21.0	8	16.3	9	31.0	8	19.5
モチベーション	25	21.0	16	32.7	5	17.2	4	9.8
公平性・公正性	23	19.3	14	28.6	2	6.9	7	17.1
自律	22	18.5	11	22.4	3	10.3	8	19.5
使命感	22	18.5	6	12.2	7	24.1	9	22.0
倫理観	21	17.6	4	8.2	4	13.8	13	31.7
リーダーシップ	18	15.1	8	16.3	3	10.3	7	17.1
セルフマネジメント力	18	15.1	7	14.3	7	24.1	4	9.8
帰属意識	17	14.3	10	20.4	3	10.3	4	9.8
チャレンジ精神	14	11.8	5	10.2	7	24.1	2	4.9
フォロワーシップ	12	10.1	4	8.2	1	3.4	7	17.1
社会貢献	12	10.1	1	2.0	0	0.0	11	26.8
忠誠心	4	3.4	3	6.1	0	0.0	1	2.4
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

（N=全体119・中49・韓29・越41、MA5）

2.3.4　調査考察

回答者は在アジア（中国・韓国・ベトナム）の日本留学希望者119人あり、その国別内訳は概ね中国50人・韓国30人・ベトナム40人である。そのため、本調査の結果は、全体平均だけで評価すると解釈を誤り易く、各国で入口条件と意思決定段階が異なる前提で読む必要がある。また、設問によって無回答者があってNが変動するため、差分の議論は割合の大小だけでなく「どのNで比較しているか」を明示して扱うのが適切である。

問01から、韓国は「１年以内に留学したい」が62.1%で意思決定の早い層が厚いのに対し、中国は「検討中(時期未定)」が67.3%で意思決定前段の潜在層が厚いことが判る。ベトナムは「２年以内に留学したい」が53.7%で、直近ではあるが一定の準備期間を前提にして動く層が中心である。

問02から、韓国は「５年以上働きたい」が65.5%で長期就労意思が明確であるのに対し、中国は「検討中(未定)」が61.2%で留学と同様に就労意思も形成過程にあることが判る。

以上から、韓国は即時・定着型、中国は潜在・安定（実利で意思決定が動く）型、ベトナムは準備・成長型として整理できる。

次に、**問03**と**問04**から、基礎能力には「日本語」と「IT基礎」の二重の格差が存在することが判る。韓国ではN3以上が79.3%であるのに対し、ベトナムではN3以上が7.3%で未学習が39.0%である。IT基礎は「ほぼ未経験」が全体で57.1%であり、中国63.3%・ベトナム63.4%で未経験層が厚い。

これらは、一律の教育設計が「上位層の意欲低下」と「未経験層の脱落」を同時に誘発し得ることを示唆する。

問05から、仕事観は「生活や家族を支える手段」(62.2%)と「自己実現・成長」(60.5%)が同時に上位であり、安定と成長が排他的でなく併存する価値構造であることが判る。

問06でも、「将来の収入・生活の安定」(57.1%)が最上位である一方で、韓国では「就職に直結する技能」(75.9%)が突出してい、各国で目的の成分が異なることが判る。

問10から、関心上位は「日本語コミュニケーション」(63.0%)で、これに「チームワーク・リーダーシップ」(31.9%)と「問題解決力・論理的思考」(31.9%)が続く。これは、IT留学を標榜していても、入口段階ではIT以前の能力（言語・協働・課題解決）がボトルネックということである。

問11では、全体として「学費・生活費」(54.6%)が最大であるが、韓国では「就職活動の進め方」が69.0%で突出しているため、「最大の不安は経済負担」と一括りに断定せず、各国で不安の主軸がずれる前提で支援設計を行う必要がある。

問07から、専門学校が「実務直結で就職に強い」(57.1%)および「企業連携・現場体験が多い」(52.1%)として認知されている一方で、大学にも31.1%が「実務直結で就職に強い」と回答していることから、役割境界が完全に固定されていないことが判る。そのため、専門学校は、「就職直結」を抽象語で言うのでなく、職種・成果物・採用接続まで具体化して説明する必要がある。

問08から、日本の企業には「品質最優先で慎重」(52.9%)と「長期雇用・安定志向」(49.6%)が強く想起される一方で、中国では「年功・上下関係」(57.1%)が高く、韓国では「残業が多い」(31.0%)が相対的に高い。そのため、「中国層を中心にして年功序列・残業懸念が根強い」と一括りで述べるより、懸念を要因別に分解して扱う方がデータ整合的である。

問09では、「日本の大手企業で働く」(44.5%)と並んで「フリーランス・副業併用」(37.0%)が上位であり、長期就労意向（**問02**）と流動的な稼ぎ方志向（**問09**）が同居する二重志向が存在することが判る。ここでは、「長期就業＝単一企業固定」と見るより、「安定を確保しつつ機会を複線的に取りに行く」行動原理として解釈する方が自然である。

問12～**問14**から、曖昧要件・ミス・短時間面談という局面での行動方略は各国で型が異なることが判る。中国には「期待や制約の確認」への集中（61.2%）が見られ、韓国では「事前資料送付・当日合意形成」

（41.4%）が相対的に高く、ベトナムでは「自己紹介→成功条件確認」（29.3%）等の関係形成を含む進め方が相対的に高い。これは、正解／不正解でなく職場適応上の摩擦点になり得る差異であるため、現代の日本のIT現場の実態も含めて「職場観のアップデート」を教育と就職支援の中核に置く必要がある。

最後に、**問15**から、全体の核は「責任感」（69.7%）・「誠実」（46.2%）・「チームワーク」（44.5%）である一方で、ベトナムでは「探究心」（53.7%）が突出し、中国では公平性が相対的に高い等、各国で強調点が異なることが判る。これらは、採用側の評価軸の議論に直結し、指導・評価・フィードバック設計の材料になる。

以上の結果は、「入口の分岐」「IT以前のボトルネック」「就職・定着のミスマッチ管理」という三層構造を可視化したものである。そのため、本事業では、国毎に支援の力点を分けた多層的支援体制を整備するのが合理的である。具体的には、韓国には、早期の企業接点と就職プロセス理解を前倒しして高度化を図ることが適切である。中国には、検討層の厚さを前提にし、費用対効果・制度・出口像の提示によって意思決定を促すことが適切である。ベトナムには、日本語とIT基礎の入口格差を前提にしてプレ教育と習熟度別運用を標準化し、脱落リスクを管理しながら成長を促すことが適切である。さらに、経済不安と職場適応不安を同時に低減させる手段として、奨学金だけに依存せず、教育成果・評価・生活支援をセットにした段階型の実務機会（実務経験と収入の両立モデル）を設計することが、留学生の戦略的受入れ体制の中核になり得る。

2.4　調査⑥ IT留学生用日本語教材事例調査

調査⑥は**IT留学生用日本語教材事例調査**である。

これは、IT留学生に適した日本語の既存教材に関する情報を収集・整理することで、IT留学生教育プログラムの教育内容を策定し、開発の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.4.1　調査仕様

本調査の**仕様**（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

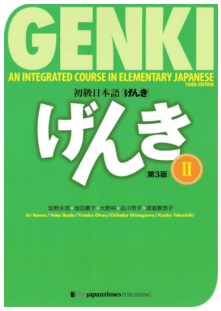
名　称	IT留学生用日本語教材事例調査
目　的	IT留学生に適した日本語の既存教材に関する情報を収集・整理することで、IT留学生教育プログラムの教育内容を策定し、開発の基礎資料にする。
対　象	各種公開資料（出版物・ウェブサイト等）
手　法	デスクリサーチ
項　目	タイトル・著者（編者・訳者を含む）・出版社・出版年・価格・概要（趣旨・要旨）・内容（目次・構成）・所見（特徴・利用法）等

2.4.2　調査結果

本調査では、IT留学生用日本語教材の事例について、**デスクリサーチ**を実施した。

その結果、20事例を確認した。その基本情報や仕様・特徴等を次頁以降に整理する。

▼ 事例01（共通領域）

教材名	初級日本語 げんきⅡ［第３版］		
作成者	坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 著		
発行者	ジャパンタイムズ出版		
発行年	2020年	価　格　3600円＋税	
概　要	「げんき」シリーズは、初級日本語を“話す・聞く・読む・書く”の４技能に亘って指導する総合教材である。1999年の初版発行以来、世界中の日本語教員・学習者に愛用されてきた。本教材は改定第３版で、全２巻（全23課構成）のうち２巻目である。		
内　容	○ レベル：初級、ジャンル：総合、言語（文法解説・語訳・指示）：英語、表記：漢字かな混交（第２課までローマ字併記） ○ 日本に留学しているメアリーとその仲間のストーリーで学習させる展開。 【構成】 会話・文法編 第13課　アルバイト探し　第14課　バレンタインデー　第15課　長野旅行 第16課　忘れ物　第17課　ぐちとうわさ話　第18課　ジョンさんのアルバイト 第19課　出迎え　第20課　メアリーさんの買い物　第21課　どろぼう 第22課　日本の教育　第23課　別れ 読み書き編 第13課　日本のおもしろい経験　第14課　悩みの相談　第15課　私が好きな所 第16課　まんが「ドラえもん」　第17課　オノ・ヨーコ　第18課　大学生活 第19課　手紙とメール　第20課　猫の皿　第21課　厄年　第22課　桜さんの日記 第23課　顔文字と絵文字 巻末資料 文法索引、単語索引１、単語索引２、日本地図、数、活用表		
所　見	○ 全２巻（全23課）で、初級の文法全般と漢字 約300字・語彙 約1700語を習得させる（想定授業時間 約200時間、「Ⅰ」修了：JLPT N5/CEFR A1相当、「Ⅱ」修了：JLPT N4/CEFR A2相当）。 ○ 社会の変化や学習者の多様化に伴い、語彙・練習等の改訂や登場人物の多様性への配慮が施された。場面や状況、感情等の理解を助けるイラストも豊富に挿入されている。 ○ 電子版教科書あり。音声アプリ（３種：単語練習・漢字練習・活用練習）あり。 ○ 公式ウェブサイト（「げんきオンライン 第３版」https://genki3.japantimes.co.jp/）あり。音声ファイル、学習者用補助コンテンツや教員用補助教材・指導書等がある。		

▼ 事例02（共通領域）

教材名	やさしい日本語 初級１		
作成者	Ｊリサーチ出版 編		
発行者	Ｊリサーチ出版		
発行年	2019年	価　格　1600円＋税	
概　要	やさしく学べる初級日本語テキストのシリーズ第１弾である。非漢字圏の学習者を主対象にして誰もが無理なく初級日本語の基礎を習得できることを狙いとした教材である。基礎と運用力を身につけさせる対訳と丁寧なポイント説明があるため、自習用教材としても活用できる。		
内　容	【構成】 はじめに　　この本の使い方 序章　日本語の基本情報　　（１）日本語の文字　　（２）日本語の音 UNIT１　～は～です　　UNIT２　～をおねがいします　　UNIT３　これは何ですか UNIT４　おいしいです　　UNIT５　～はどこですか　　UNIT６　いま何時ですか UNIT７　これはいくらですか　　UNIT８　～に行きます　　UNIT９　～を飲みます UNIT10　～をください　　UNIT11　～てください　　UNIT12　～たいです UNIT13　～が好きです　　UNIT14　～がほしいです　　UNIT15　～はありませんか ［付録］ひらがな・カタカナ表／カレンダー表／数え方チャート／あいさつなど／動詞活用表／形容詞活用表など ［さくいん］ローマ字・ひらがなのさくいん ［別冊］練習問題の答え・聴き取り練習のスクリプト、各ユニットのCan-Doと文型 特徴 ○ 初級を更にレベル別に分けた、取り組み易い学習ペース。 ○ 漢字を使用せず、ローマ字を用いたやさしい作り。 ○ 文法と会話をスパイラルに積み上げ、バランスよく日本語運用力を習得させる構成。 ○ “すぐに使える”日常場面の会話表現を少しづつ着実に憶えさせる工夫。 ○ Ｎ：名詞、NA：ナ形容詞、Ａ：イ形容詞、Ｖ：動詞とする記号の使用。 ○ 英語・ベトナム語の対訳・部分訳つき。		
所　見	○ 非漢字圏学習者の急増や商用・就労目的来日者の増加等、日本語学習ニーズの多様化という背景を踏まえて作成されている。 ○ 本教材名における「やさしい日本語」には、「簡単になるように日本語を単純化したり加工したりすることを意味していない」とした上で、高い学力がなくても日本語に親しみ気軽に日本語を使えるようになれるという趣旨が込められている。 ○ 音声CD（47分54秒）付き、音声ファイルのダウンロードあり。 ○ 学習サポート専用サイトあり（QRコード付き）。		

▼ 事例03（共通領域）

教材名	今日からはじめる 感じがいい日本語［初級レベル］		
作成者	栗又由利子・世良時子		
発行者	Gakken		
発行年	2023年	価　格　2000円＋税	
概　要	日本で生活する様々な人が、相手と楽しくコミュニケーションを図ったり、よりよい人間関係を築いたりするために必要な日本語を学ぶ。そのために、「感じがいい」日本語を使えるようになることを目指す教材である（初級～中級レベル）。		
内　容	○ 全４Unit（全30Lesson）構成。１Lesson＝１学習項目で、見開き２頁。 ○ 英語・ベトナム語・中国語の翻訳つき。 ○ 対象は20～70歳以上。用途は日常学習用・資格/試験対策用。 【構成】 便利な表現、丁寧体と普通体 など Unit1　自分のことを話してみよう 　Lesson１～９　氏名・居住・経験・できること・家族等に関する自己紹介と相互質問 やってみよう！　チャレンジ１・２　場面毎の自己紹介、宅配便での荷物の送付 Unit2 自分から話しかけてみよう 　Lesson10～17　天気・近況等での話題を切り出しと共感・体験報告等を織り交ぜた小会話 Unit3　いろいろな機能の表現を使ってみよう 　Lesson18～26　確認・行動報告・伝聞・依頼・許可・婉曲的断り・丁寧な請願等の選択運用 Unit4　教科書では学ばない日本語 　Lesson27～30　防災・緊急の呼び掛けや命令・ぞんざい体等、実社会の口語表現とその適用 救急情報シートを作ってみよう ［コラム］星座・血液型等の雑談の糸口や話題化のコツ、言い止し文と相槌の使い方など、ニュアンス理解を通じて会話を円滑にする“話題選び×聞き方”のセンス		
所　見	○ 全ての会話例にイラストと音声動画が付いているため、その会話場面を想像し易い。 ○ 独学を継続できるように工夫が施され、Lesson毎の内容・分量も抑えられているため、自習用教材としても活用できる。 ○ 各Unitの最後にタスクとその結果を振り返る表が設けられている。タスクには、周囲の者とのやり取りが必要になる活動・作業が設定されているため、この教材自体がコミュニケーションツールにもなる。 ○ 日本語学習だけでなく、相互理解・異文化理解を促す教材としても活用できる。		

▼ 事例04（共通領域）

教材名	日本人がよく使う 日本語会話オノマトペ基本表現180		
作成者	清ルミ		
発行者	Ｊリサーチ出版		
発行年	2018年	価　格　1600円＋税	
概　要	日本語教育において教科書で扱われることが少ないオノマトペ（擬音語・擬態語）を集中的に学習させられる教材である。１万以上あると言われるオノマトペから特に基本になる180語を厳選して取り上げられている（より自然な日本語を習得したい初級～中級（N3レベル程度）向け）。		
内　容	○ 言葉の特徴から全体を４パート、更に小テーマをペアやグループに分類の上、比較対照。 ○ 日本人の使用頻度が高い会話例を取り上げ、一つ一つの語を「Point」「Small Steps」等のコラムで解説。視覚的にも理解し易いイラストも挿入。説明文・例文等に英訳・ローマ字表記が付いて独習し易い工夫。 【構成】 PART１　動詞と一緒に使う 話す・しゃべる・言う（ペラペラ／ぶつぶつ 等）、見る（ちらっと・ちらりと／ちらちら／じっと／じろじろ 等）、飲む（ごくごく／がぶがぶ 等）、笑う（ゲラゲラ／クスクス／ニコニコ／にっこり／ニヤニヤ等）、回す・回る（くるくる／コロコロ／ぐるっと 等）等 PART２　動作や変化の特徴を表す やり方（さっと／ざっと／すっと／そっと／てきぱき／わざわざ 等）、正しく・確実に（きちんと／ちゃんと／しっかり／じっくり／きっぱり 等）、勢い（どんどん／グングン／少しずつ／コツコツ／じわじわ／ぞろぞろ 等）、音（トントン／ドンドン／ガンガン／バタバタ／ガタガタ 等）等 PART３　ものの状態を表す・強調する 水・油（びしょびしょ／ベトベト／ぬるぬる／ネバネバ 等）、触った感触・見た感じ（ざらざら／すべすべ／つやつや／ツルツル／しっとり／さらさら／パサパサ 等）、輝き（ピカピカ／キラキラ 等）、元の形を失う（くしゃくしゃ／ボロボロ／バラバラ 等）、柔らかさ（ふわふわ／ふかふか 等）、いっぱい（ぎっしり／びっしり 等）、多少（たっぷり／ちょこっと 等）、温度（ポカポカ／アツアツ／ひんやり等）、料理・味（こってり／あっさり／さっぱり／ピリッと／コトコト 等）等 PART４　心の状態を表す 驚き（びっくり／ドッキリ・ドキッ 等）、気分（さっぱり／すっきり 等）等		
所　見	○「ガリガリ君」「プッチンプリン」等の商品名や「じっくり」「さっと」等、学校の講義・実習や調理の現場でよく使われるオノマトペの理解に役立つ。 ○ 感覚的・情緒的な表現で相手に伝えることを好む日本人の感覚や、「客観的に見ると、～のようになる」と静的に表現する日本語の特性について理解が深まる。 ○ 音声CD付き、音声ファイルのダウンロードあり。ニュアンスが解るように制作されている。		

▼ 事例05（共通領域）

教材名	まるごと　日本のことばと文化　初中級　A2/B1		
作成者	来嶋洋美・柴原智代・八田直美 著 独立行政法人国際交流基金 編著		
発行者	国際交流基金日本語国際センター運営		
発行年	2015年	価　格　2800円＋税	
概　要	独立行政法人国際交流基金（JF：ジャパンファウンデーション）が「JF日本語教育スタンダード」の６レベルに準拠して、初中級（A2/B1）用に開発した教科書である。自身の背景や周囲の状況等、直接に関係がある範囲の事柄を表現でき、短く意見や理由を述べられるレベルを目標とする。		
内　容	○ 身近なトピックでより自然なコミュニケーションを図れるよう、言語パフォーマンスと言語知識（文法・文型）の両面から、学習内容を細やかに構成。 ○ 全頁フルカラーで、豊富な写真とイラストで丁寧に説明。 ○ 学習者自身が学習を管理できるポートフォリオつきで、日本語や日本文化の学習を細かく記録するように促している。 ○ CEFR基準を採用し、他言語の学習と比較し易い設計。 → 各課冒頭に「日本語を用いて何をどうできるか」という課題遂行（Can-do）の目標を表示。 ○ 異文化の理解と尊重を重視し、多様な文化背景を持つ者が日本語で交流する場面を各トピックに設定。 ○ トピックは「じゅんび」（ごい／漢字）→「きいてはなす」（かつどう Can-do レベル、ひょうげん、ことばと文化）→「よんでわかる」（かつどう Can-do レベル、ぶんぽう・ぶんけい）の３段階で構成。 ○ 大量の音声インプット（３時間17分）を付録。 ○ 冒頭部分にのみ英語翻訳つき。 【構成】 1　スポーツの試合　スポーツの名前　スポーツを見に行く 2　家をさがす　家と近くにあるもの　住む家の条件 3　ほっとする食べ物　国の料理　食生活 4　訪問　訪問の表現　家族のよび方　会話のトピック 5　ことばを学ぶ楽しみ　外国語を学ぶ目的　外国語を学ぶ方法 6　結婚　人生のいろいろなできごと　人とこうさいする 7　なやみ相談　なやんでいるときの行動　なやんでいる人に対する行動 8　旅行中のトラブル　空港でのアナウンス　空港でのトラブル 9　仕事をさがす　いろいろな会社　職場について　仕事をする ◆ 文法のまとめ：　丁寧形と普通形　動詞の活用　助詞　・疑問詞　話しことば		
所　見	○「まるごとサイト」（https://marugoto.jpf.go.jp/）に関連資料や学習支援サイトへのリンクあり（無料）。		

▼ 事例06（共通領域）

教材名	SUPER REAL JAPANESE		
作成者	Valiant Japanese Language School 著		
発行者	KADOKAWA		
発行年	2023年	価　格　1500円＋税	
概　要	日常生活で本当に必要で自然な日本語を教える日本語学校Valiant Japanese Language Schoolが作成した若者向けカジュアルな会話の表現集である。「ガチで（gachide）→ truly」のように英語ベースで、日本語にローマ字表記が附与されている。		
内　容	○ 日本語の教科書に載っていない、日本の若者が用いる表現（「ビビるわ！」「たしかに」「エグいな」「フツーに」等）を多数紹介。 ○ 日常会話でよく使われる単語や自然な日本語の表現を理解し、話せるようになることが目標。 【構成】 １～５　リアルな表現・会話・１日・食事・恋愛 → 楽しい（①「ウケる」　②「腹いたい」　③「涙出てきた」　④「笑える」　⑤「ジワる」　⑥「爆笑」　⑦「マジ草」） → 強調（① pretty「フツーに」　② seriously「マジで」　③ truly「ガチで」　④ really「リアルに」　⑤ all jokes aside「冗談抜きに」　⑥ super「超」　⑦ quite「かなり」） → 朝～通勤・通学（① to over sleep「寝坊する」　② to be half asleep「寝ぼける」　③ 「朝ごはんを食べる」　④ to put on make-up「メイクする」　⑤ to get on a full train「満員電車に乗る」　⑥ The train is running late「電車が遅れてる」　⑦ to be just time「ギリギリ間に合う」） → 食事を作る（① to wash rice「お米をとぐ」　② to steam rice「ご飯を炊く」　③ to fry tempura「てんぷらを揚げる」　④ to change the taste「味変する」　⑤ to put in the microwave「レンチンする」　⑥ to prepare a meal with various leftovers「あり合せで作る」　⑦ to put time and effort into cooking「手間暇かける」） → 印象（① Time flies when I'm with him/her「時間が速く感じる」　② I can't keep my eyes off him/her「目で追っちゃう」　③I'm interested in him/her「気になる」　④ He/She is my type「タイプ」　⑤ I like his/her voice「声が好き」　⑥ I like the perfume she wears/the cologne he wears「つけてる香水が好き」　⑦ He/She is my ideal man/woman「理想的」） ６　日本観光 → 警察に行く（① Are there any police stations nearby?「この近くに交番はありますか」　② I dropped my wallet「財布を落してしまいました」　③ I picked up a credit card「クレジットカードを拾いました」　④ My bicycle was stolen「自転車を盗まれました」　⑤ I would like to ask for directions「道を訊きたいんですが」　⑥ I don't have much time「あまり時間がありません」　⑦ I don't need a (financial) reward「お礼は要りません」）		
所　見	○ 学校は、実生活での会話に根づいたリアルな表現を教えるレッスンで人気。 ○ 音声ファイルを、AI英語教材「abceed（エービーシード）」サイトからダウンロードでき、スマホアプリで聴ける。		

▼ 事例07（共通領域）

教材名	生活者としての外国人向け 私らしく暮らすための日本語ワークブック		
作成者	深江新太郎 著		
発行者	株式会社アルク		
発行年	2021年	価　格　2300円＋税	
概　要	基本文型や、場面ごとの定型会話を学ぶのでなく、日本で暮らす外国人が、自分の望みをかなえ、満足して暮らすためにそれぞれに必要な日本語から学ばせる。日本人のパートナーと組んで、パートナーと対話しながら活動を進めていくワークブック形式の教材である。		
内　容	○ 著者は、外国人が自分の国では当たり前にあった「私」にとって適したものを選べる日常を、日本での生活で一時的に失うことに着目。例えば、自分の食べたい食糧品を探して手に入れる、ドラッグストアで体調に合う薬や好みのシャンプーを選ぶ、なりたい髪型をうまく伝えて切ってもらうなど。外国人が自分の希望をかなえられるような日本語を提示している。 ○ 必要な日本語は各々に違うため、学習者一人また複数に、日本人のパートナーが一人ついて、対話をしながら学習させる。 ○ 会話を楽しみ、深めることで、語彙や表現を増やしていけるよう、レイアウトに工夫。 ○ 課ごとに、私らしく生活するために実現したいことを「Hope to」として表示。学習者に希望を丁寧に聞いた上で、それを実現する表現が提示できるようにデザインしてある。 ○ やりたい（調べたい）ことを考え、その実現のための情報収集などを書くワークがある。 ○ 英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語の翻訳つき。 【構成】 1　食べ物を買いに行く　2　服を買いに行く　3　日用品・薬を買う　4　病院へ行く 5　災害に備える　6　目的地へ行く　7　住まいを探す　8　ふるさとを紹介する 9　日常について伝える　10　好きなことを紹介する　11　食事に出かける 12　旅行を楽しむ　13　髪を切りに行く　14　社会のルール・マナーを知る 15 メッセージを送る		
所　見	○ 教師（パートナー）用ガイドがアルクのサイトからダウンロードできる。 ○ 電子書籍あり。		

▼ 事例08（共通領域）

教材名	外国人のための ケーススタディで学ぶビジネス日本語 中級		
作成者	千駄ヶ谷日本語教育研究所		
発行者	スリーエーネットワーク		
発行年	2020年	価　格　2400円＋税	
概　要	日本のビジネス習慣について理解を深め、日本・日系企業へ就職後、社内外で円滑にコミュニケーションできることを目指した教材である。海外の大学生や日本国内の留学生、就労中の外国人を対象にする。		
内　容	○ 各課は、「依頼」「報告」「申し出」などの新入社員が遭遇しやすい場面を設定。読解と会話に分けている。 ○ 読解では、ビジネス習慣について解説した文章を読んだ上で、ケーススタディを通して、自分なら具体的な場面でどのように対応するか、考えをまとめる。 ○ 会話では、表現や会話の運び方を学び、ロールプレイをすることで、実践的なコミュニケーション能力を伸ばす。 ○ 初中級修了程度（CEFR B1程度、STBJ BJ3以上、JLPT N3以上） ○ N3相当以上に漢字を含む語すべてにふりがなつき。 ○ 標準的な学習時間は、１コマ45分として150コマ程度。各課「はじめに」と「読解」編で６コマ。「会話」編と「まとめ」で６コマ。 ○ 英語・中国語・ベトナム語訳つき（表現等の解説、語彙リスト） 【構成】 第１課　依頼　第２課　アポイントメント　第３課　謝罪 第４課　感謝　第５課　自己紹介・他者紹介　第６課　挨拶 第７課　誘い　第８課　指示　第９課　報告 第10課　申し出　第11課　許可　第12課　意見交換 付録　敬語		
所　見	○ 著者の千駄ヶ谷日本語教育研究所は、1975年開設のSetagaya　Japanese　Institute（SJI）のグループ校で、日本語教師養成講座を展開。 ○ 出版社サイトに、音声（読解・会話）、語彙リスト（五十音順）、表現リスト（読解・会話）、授業のヒント、の補助教材（無料）がある。		

▼ 事例09（共通領域）

教材名	中級からの人とつながる日本語会話 ワンランク上のコミュニケーション力を目指そう		
作成者	小池真理・小林ヒルマン恭子・宮崎聡子 著		
発行者	ひつじ書房		
発行年	2024年	価　格　2400円＋税	
概　要	中上級者に多く見られる「相手の話はわかるが上手く応答できない」「会話が続かない」などの悩みを解消するために、自然でスムーズな会話力を養う会話教材。様々な人と上手につながっていけるようになることを目的としている。		
内　容	○ 会話の中で必要な配慮とは何かを考え、話し手としてだけでなく、聞き手として相手の意図を汲み取り、共感を示す方法を丁寧に学べる。 ○ 各課に、自己表現できる練習、タスクカードに基づいた長い会話練習、振り返り活動が入っている。 ○ 語彙や表現を豊富にし、学生にも社会人学習者にも役立つ内容。 【構成】 ウォーミングアップ 日本語の会話の特徴――相づちと終助詞 第１課　関心を示して自己紹介をする 第２課　気持ちを配慮して誘う・誘われる 第３課　気持ちを配慮して謝る・謝られる 第４課　わかりやすく伝言を頼む・する 第５課　わかりやすく料理の説明をする・求める 第６課　気持ちを配慮して頼む・頼まれる 第７課　なごやかに雑談する 第８課　立場や状況を配慮して目上の人と話す 第９課　意向を配慮してアドバイスをする・求める 第10課　わかりやすく行事の説明をする・求める 第11課　気持ちを配慮して提案し話し合う 第12課　気持ちを共有しながら感想を話す・聞く 第13課　具体的に詳しく感想を話す・聞く 第14課　気持ちを共有しながら経験を話す・聞く 第15課　相手の意見を尊重して意見を言う・求める コラム：日本語のオノマトペの音の意味 まとめ：よいコミュニケーションにするために グループ活動例：自分の考えを発表し、話し合う/ 4コマ漫画のストーリーを作る 【別冊】音声箇所のスクリプト／よいコミュニケーションの会話例		
所　見	○ 漢字には、文字の下にふりがながついており、読みやすさに工夫がある。 ○ 出版社のサイトに音声と教師用ガイド（4コマ漫画つき）の副教材がある。		

▼ 事例10（共通領域）

教材名	中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語 ―就活から入社まで―		
作成者	村野節子・山辺真理子・向山陽子 著		
発行者	スリーエーネットワーク		
発行年	2018年	価　格　1700円＋税	
概　要	大学の学部や専門学校のクラス授業での使用を想定した教材。日本での就職活動や、新入社員としての会社生活に有用な基礎日本語力を養成する。日本語上級者になる前から、ビジネス場面の指導を行うことをねらいにしている。		
内　容	○ 前半＝学生編、就職活動準備から面接の場面。後半＝新入社員編、入社直後から数ヶ月の場面。ロールプレイ、エントリーシートやメールの作成、ディスカッション等のタスクを多く設定。 ○ ビジネス場面でよく使用される文型・表現や、就職活動を含む日本の企業文化に関する知識を多数紹介。 ○ 対象：中級～中上級レベル。 【構成】 就活編 Unit１　就活（就職活動）の準備 　１課　インターンシップ情報を得る　　２課　インターンシップに応募する 　ケーススタディ１　カラスの集団？ 就活ルックって？ Unit２　インターンシップ 　３課　インターンシップに参加する１　　４課　インターンシップに参加する２ 　ケーススタディ２「ほうれんそう」って必要？ Unit３　就職の面接 　５課　面接を受ける１　　６課　面接を受ける２ 　ケーススタディ３　私の意見は正しいのに 新入社員編 Unit４　初めての仕事 　７課　報告書を書く　　８課　データをまとめる 　ケーススタディ４「例の」、「あれ」って何？ Unit５　電話対応 　９課　電話を取り次ぐ　　10課　伝言を受ける 　ケーススタディ５「（さ）せていただく」の洪水？ Unit６　社外の交渉 　11課　アポを取る　　12課　謝罪をする 　ケーススタディ６　ダメならダメと早く言って！ Unit7　社内の交渉 　13課　誘いを断る　　14課　許可を得る 　ケーススタディ７　10分遅れただけなのに…… 【別冊】文型・表現の問題の解答例		
所　見	○ CD1枚つき（出版社サイトでも聞ける） ○ 一部、英語、中国語、ベトナム語の翻訳つき。サイトに補助教材あり。 ○ 法人向け電子版あり。サイト上での閲覧のみ。		

▼ 事例11（IT分野）

教材名	しごとの日本語　IT業務編		
作成者	村上吉文 著		
発行者	アルク		
発行年	2008年	価　格　2400円＋税	
概　要	ITに関する専門的な知識や技術があっても、日本語での意思疎通に苦手意識がある外国人エンジニア向けの教本である。業務段階ごとの場面と、到達目標が細やかに設定されており、業務に必要な表現力が身につく内容で、日本語で仕様書を読めることを目指す。		
内　容	○ 対象レベル：日本語中級程度。少なくとも初級前半を終えており、動詞の活用など初歩的な事柄をマスターしていれば、総合テキストと平行して使用できる。 ○ IT企業で働きたい文系の留学生や、ITの専門分野について理解を深めたい日本語教師にもおすすめ。 ○「発展語彙」としてITの専門用語を多数収録、英語訳がある。 ○ 日本語にふりがな、英語訳つき。英語のみのポイント解説がついている。 【構成】 第１章「ウォームアップ」→ 日本語で仕事を見つけよう （中国とインドで求人ポスターを見た２人の外国人エンジニアが日本へ旅立つまでのストーリーで初級文法の確認） 1　求人ポスター　2　電話で問い合せる　3　職務経歴書　4　面接 5　ビザの取得 第２章「場面で覚える」→ プロジェクトチームの一員になろう （システム開発の流れに沿って、プロジェクトチーム内で必要になる会話を再現。２人の外国人エンジニアが、日本人の上司や同僚といろいろな障害を乗り越えながら、システムを完成させる） 1　自己紹介　2　要件定義書の読解　3　内容確認　4　担当業務の通知 5　詳細設計書を書く　6　仕様変更　7　単体テスト終了報告　8　進捗状況の報告 9　遅延報告　10　担当モジュール完成報告　11　結合テスト 12　デバッグ終了報告とシステムテストの準備　13　システムテス 14　オペレーションデモの準備　15　オペレーションデモ 第３章「仕様書を読む」→ 文章表現に慣れておこう （システムの機能を表したフローチャートを見ながら、エンジニアに欠かせない「仕様書」を日本語で理解するための読解力と語彙力を身に付ける） 1　販促対象検索処理　2　受注処理　3　発注処理		
所　見	○「モデル会話」で、よくあるシステムの機能をフローチャートで示している。本書では学習者の理解を助けるために、フローチャートに文章を挿入してわかりやすくしてある。 ○「ポイント」で、開発の流れや表現の背景を詳しく説明している。 ○ CDつき。スマホの無料アプリで音声ダウンロード、再生ができる。会話の先を予測しながら音声を聞くよう勧めている。		

▼ 事例12（IT分野）

教材名	ロールプレイで学ぶIT日本語会話		
作成者	谷口恵・田原宏・斉藤實敏・石井敏愛 編著		
発行者	大連理工大学出版社		
発行年	2024年	価　格　2500円＋税	

概　要

日本のIT業務に従事する中国人IT人材向けで、上・下巻からなり、一般ビジネス知識も踏まえた幅広い折衝会話集である。日本語教師とIT専門家が共同開発した実践的な日本語教材である。

内　容

○ 会社での日常会話から、IT業務会話だけでなく、ITビジネス展開に役立つノウハウまで、実践的な内容を幅広く扱う。

○ 対象レベル：日本語レベルはN3～N1。IT職種レベルは、新人／PG／SE／GL／PL／管理職まで。

○ ロールプレイすべてにモデル会話をつけて学習者が振り返りできるようにしている。

○ IT業界で特有の表現や考え方が示してある。

○ 音声と中国語訳つき。

【構成】

◆ 上冊

第一部　IT会社生活
職場の人とコミュニケーション／仕事に慣れる／電話／ミーティング

第二部　ITビジネス編
○ 異文化交流（企業内編）：　初対面で給料を聞かれてびっくり／受付は私の仕事ではない／仕事の進め方
○ 異文化交流（対顧客編）：　システムが動かない／カスタマイズ要求／仕様変更／中身か書式か／中間納品
○ 初めてのグループリーダー（GL）：　トラブルを解決する／納品漏れがあった／プロジェクトの振り返り

◆ 下冊

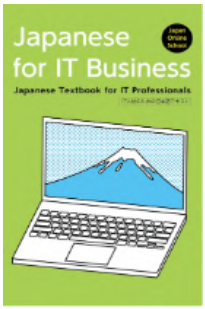
第一部　開発業務
○ 開発業務概要：　開発プロセスとスキル PGとSE（上流工程を学ぶ）／業務知識／ビジネスの流れ
○ 見積と折衝：　作業項目の洗い出し／見積書の作成／見積交渉
○ 進捗会議：　キックオフミーティング（KOM）／お客様との進捗会議／トラブル、クレーム
○ 仕様変更、追加対応：　仕様変更（社内会議）／仕様変更（お客様との会議）／緊急作業対応（臨機応変な社内対応）
○ 納期、納品：　納期遅れ／納品

第二部　保守業務
○ 保守業務概要：　保守業務とは／保守業務の内容
○ 事前知識習得：　業務知識／変更仕様書
○ 機能追加：　ニーズ確認／工数見積／要件調整／修正作業／リリース
○ 障害対応：　原因調査／障害報告／再発防止策

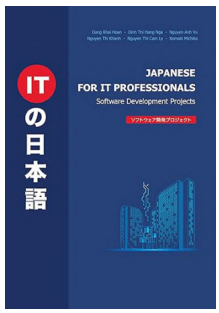
所　見

「ロールカード」の項目では、実際の業務での経験を思い出させ、日本語で話す際の注意点や改善点を話し合う課題がある。また、相手の感情を「怒り・失望・困惑・その他」から推測させる問いもある。「コラム」では、「ダイバーシティー」「イノベーション」等の語について詳説している。

▼ 事例13（IT分野）

教材名	Japanese Textbook for IT Professionals IT人材のための日本語テキスト		
作成者	村上美穂子・飯嶋雅代 著　小池慶 編		
発行者	有限会社ジャパンオンラインスクール ITビジネス日本語チーム		
発行年	2016年	価　格　900円＋税	
概　要	Kindle版（電子書籍）。元ITエンジニアの日本語教師がIT企業監修で制作し、外国人ITエンジニアが職場で必要とされる日本語能力を効率的に習得できるように構成された日本語学習教材である。		
内　容	○ JLPT N3相当程度～N２相当以上。 ○ 日本で働き始めるところから始まり、開発に携わり、顧客デモ、アフターサポートまでの一連の流れを場面ごとに学ぶ構成。 【構成】 1　面接：　面接の流れを理解する／職務経験／保有スキルを説明する （コラム）面接のポイント 2　新しい職場で：　自己紹介する／作業を依頼する／作業内容を確認する （コラム）自己紹介のポイント 3　指示を受ける：　指示を受け、期限を確認する／次の指示を聞き、優先順位を確認する／要件定義書と要求定義書の違いを知る （コラム）日本人のおかしなカタカナ英語 4　打ち合せ：　担当業務について質問する／業務の詳細を詰める （コラム）「センスの良い質問」と「センスの悪い質問」 5　開発中のやりとり：　注意を受ける／ミスを認めて謝る／アドバイスへのお礼を言う （コラム）誠意が伝わる謝罪のコツ 6　進捗報告：　会議で作業の進捗を報告する／スケジュール遅延の相談をする （コラム）ホウレンソウは上司活用の手法!? 7　単体テスト・結合テスト：　状況を説明する／エラーの原因を説明する （コラム）事前にエラーを防ぐために 8　システムテスト：　内線電話に応対する／仕様変更依頼に対して代替案を示す （コラム）「少し気になる」は「とても気になる」？ 9　顧客デモ：　デモ環境セッテイングの手伝いを申し出る／顧客の過大な要求に応える （コラム）プレゼンテーションで失敗しないコツ 10　顧客検収テスト・アフターサポート：　様々な状況を仮定する／検収テストの結果を伝え聞く （コラム）仕事ができる外国人ビジネスパーソン		
所　見	現役エンジニアの他、エンジニアを目指している学生への日本語教育にも使用可能で、大学（ITビジネス学科）等でも使用されている。		

▼ 事例14（IT分野）

教材名	ITの日本語：　ソフトウェア開発プロジェクト		
作成者	Nguyen Anh Vu・Dang Khai Hoan・Dinh Thi Hang Nga・ Nguyen Thi Khan・Nguyen Thi Cam L・小牧通子 著		
発行者	Amazon Services International LLC 販売		
発行年	2022年	価　格　2099円（税込）	

概　要

Kindle版（電子書籍）。日本の顧客とソフトウェア開発プロジェクトで通訳・翻訳を長年務め、企業研修で日本語を教えてきた著者らの経験に基づいた、日本語中級者以上対象の日本語教材である。

内　容

○ ウォーターフォール型プロジェクトの開始から終了まで、プロジェクトライフサイクルに沿って構成。多様な同義語や多彩な表現を盛り込まれている。

○ ソフトウェア開発プロジェクトの全体像を想像し、それぞれの工程で使う頻度の高いIT用語を学べる。

○ 読解は、ITの知識を蓄えてもらえるよう、ソフトウェア業界で登場する基本概念を解り易く説明。モデル会話は、読解の内容と関連したプロジェクトの会議で交わされる会話を模擬的に再現。

○ 英語訳、ベトナム語の語彙リストがついている。

【構成】

1　プロジェクト概要：　概要の理解／キックオフミーティングの目的や内容を理解／プロジェクトの目的や体制、コミュニケーションプランを説明

2　見積り：　見積りを理解／マスタースケジュールを説明／キックオフミーティングで、マスタースケジュールを説明

3　開発環境：　内容を理解／開発環境を説明／開発環境や構成管理を説明

4　議事録：　議事録の理解／日本へオンサイトする場合に必要な招聘状を理解／会議で顧客とオンサイト計画や手続きについてやりとり

5　要件定義：　要件定義を理解／自ら提案

6　基本設計：　基本設計を理解／基本設計を説明

7　要求変更：　要求変更・仕様変更の理由、原因を理解／書類やフローなどの基本的な管理のプロセスを理解／顧客と相談するときの表現

8　詳細設計：　詳細設計の理解／週次会議で確認や相談

9　週報：　週報を理解／週次報告する

10　情報セキュリティ：　情報セキュリティを理解／セキュリティ事故を報告

11　コーディング規約：　コーディング規約の重要性を理解／確認事項管理表、レビュー結果管理表の内容と目的を理解し、委託側と受託側のやりとりの状況を把握する方法を理解／ソースコードレビューの会議でコミュニケーション

12　ソフトウェアテスト：プロセスとテストタイプの理解／テストを相談

13　品質報告：　品質報告の理解／品質報告

14　リリースノート：　目的、分類、構成、記載される内容や表現を理解／リリース（納品）の機能や制限事項、今後の計画などを相談

15　お客様アンケート：　役割と構成の理解／振り返り会議でディスカッション

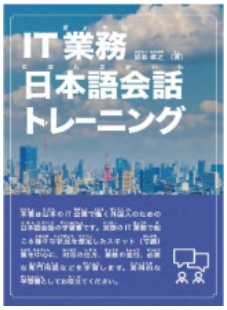
所　見

○ 付録が充実している。
○ 略語一覧：　レッスンに登場する略語をアルファベット順に、英語と日本語で併記。
○ 記号一覧：　よく使われる記号をまとめ、日本語と英語で紹介。

▼ 事例15（IT分野）

教材名	ゲンバの日本語 単語帳［IT］働く外国人のためのことば		
作成者	一般財団法人海外産業人材育成協会 著		
発行者	スリーエーネットワーク		
発行年	2022年	価　格　900円＋税	
概　要	「ゲンバの日本語」シリーズの単語帳である。IT業務の働く現場で必要な最小限のことばを厳選し、６言語で翻訳がついている。実際の現場で聞いたり、話したりすると想定される易しい例文がついているため、短時間でも効率的に勉強できる教材である。		
内　容	○ 対象：　日本で就労している、または就労を希望している初級学習者。 ○ 表記：　漢字かなまじり、総ルビ。 ○ 翻訳：　英語、中国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、ミャンマー語。 ○ 「納期」「組み立てる」「5S」といった一般向けの日本語教材では学習しない言葉を、日本語入門～初級者でも、すきまの時間で調べて学習できる。 ○ 例文は、初級前半（『みんなの日本語 初級Ⅰ』20課まで）の文型を使用。20文字程度で理解しやすくしてある。 ○ 必要なところから学習できる構成。「共通基礎語彙」136語、「分野別語彙」145語。それぞれトピックごとにまとめて掲載。 ○ 例文だけではなく語彙のわかりやすい解説がついている。知っておきたい背景事情に加えて、イラスト入りでの補足説明や、コラムのまとめもあり、理解を深めやすい。 【構成】 パート1　共通基礎語彙 1　生産管理　2　製造　3　安全　4　5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ） 5　トラブル　6　社員　7　職位・役職　8　部署　9　業務　10　組織 11　就業　12　日常業務　13　会議・集会　14　目標管理　15　研修 16　書類　17　売上　18　品質管理 パート2　分野別語彙［IT］ 1　一般　2　システム　3　WEB・端末　4　人員　5　スケジュール 6　資料　7　開発工程　8　テスト　9　システム運用　10　作業　11　Eメール		
所　見	○ 出版社サイトに無料ウェブ教材―練習問題（PDF）がある。 ○ 音声アプリ（見出し語の音声が無料で聞ける。課金で翻訳表示可）あり。		

▼ 事例16（IT分野）

教材名	IT業務・日本語会話トレーニング IT業界で働く外国人のための日本語会話集		
作成者	坂本孝之 著　平成出版編集部 編		
発行者	平成出版		
発行年	2022年	価　格　2500円＋税	
概　要	日本のIT企業で働いている外国人が対象で、実際のIT業務の中で日本語の会話がよりスムーズに行えるよう、様々な場面を想定したスキット（寸劇）を中心にまとめられている。		
内　容	○ 業務会話編のスキットは、実際のIT業務の一連の流れに沿って構成。IT業務特有の、プロジェクト開始～保守までの流れを６つのパートに分けて場面を想定し、実践的な学習ができる。 ○ 本書のスキットでは、業務の進行をはじめ、日本語でのコミュニケーション能力が求められる場面での具体的な対応の仕方、業務に必要な専門用語や、付随する知識などが学習できます。 ○ 本文はルビがつき。専門用語などについても、言葉がわかりやすく解説されている。 【構成】 Part１　プロジェクト準備 Part２　設計 Part３　会議・打ち合わせ Part４　テスト Part５　納品・ユーザトレーニング・ユーザ運用テスト Part６　保守		
所　見	著者は、グローバルITプロジェクトのプロジェクトマネージャとして、米国のITコンサルテイング会社および日本のシステム開発会社にて、システム開発業務に従事した経験がある。その後、目白大学大学院言語文化研究科を修了。2019年よりベトナムの大手IT会社に勤務。ベトナム人技術者のIT教育トレーニングに携わる。		

▼ 事例17（IT分野）

教材名	留学生のためのITリテラシー		
作成者	秋山崇 著		
発行者	インフォテック・サーブ		
発行年	2017年	価　格　1800円＋税	
概　要	留学生が情報処理の基礎知識を学習するための入門書である。漢字とカタカナにはふりがなを振り、情報処理に興味を持てるようにイラストを多用して構成されている。また、難解な用語の説明もなるべく平易な表現に留め、わかりやすいテキストである。		
内　容	○ 索引でIT用語の日本語と外国語の対応表がある。日本語、英語、ベトナム語、中国語、ロシア語、ミャンマー語が並べてある。 【構成】 〈ハードウェアとソフトウェア〉 1　コンピュータの種類　2　コンピュータの基本構成　3　プロセッサとメモリ 4　ソフトウェアの利用 〈データベース〉 5　データベースの構築　6　データベース管理システム 〈ネットワーク〉 7　ネットワークの基本構成　8　インターネット技術 〈セキュリティ〉 9　情報セキュリティの概要　10　情報セキュリティ対策　11　暗号技術 12　認証技術 〈情報システム〉 13　システムの構成　14　システムの評価指標 〈マルチメディアとヒューマンインタフェース〉 15　マルチメディア技術　16　ヒューマンインタフェース技術 〈プロジェクトマネジメント〉 17　システム開発技術　18　データ構造とアルゴリズム　19　プログラミング 20　プロジェクトマネジメント 〈サービスマネジメント〉 21　サービスマネジメント　22　システム監査 〈企業と法務〉 23　企業活動と組織形態　24　業務把握と業務改善　25　企業会計　26　企業法務 〈経営戦略〉 27　経営戦略マネジメント　28　技術戦略マネジメント 〈システム戦略〉 29　情報システム戦略　30　システム企画		
所　見	テキスト投影用PDF演習問題（Excelデータ）、日本語・外国語対応表（Excelデータ）は、教育機関がまとまった数量を採用の場合、提供がある。		

▼ 事例18（IT分野）

教材名	（改訂版） 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール		
作成者	武田聡子・長崎清美 著 特定非営利活動法人 日本語教育研究所 編		
発行者	日本能率協会マネジメントセンター		
発行年	2023年	価　格　1550円＋税	
概　要	日本企業で働く外国籍新入社員および就職希望留学生が日本の商慣習とビジネスマナーを学ぶための教材で、日本で働くための最初の１冊である。		
内　容	○ ビジネス日本語だけでなく、ビジネスマナー、仕事の進め方、個人情報保護法などの法的ルールについても、具体的な事例を交え、クイズやワークを盛り込み解説。 ○ 改訂版では、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて変化した仕事のスタイル（オンライン化等）について追記し、近年の状況に合わせて更新。 ○ 日本語能力試験N3以上の漢字やことば（語彙）にふりがなつき。 第１章　ビジネスコミュニケーション １　日本人と働く心がまえ　２　上司・先輩とのつきあい方　３　同僚とのつきあい ４　就業時間外のつきあい方　５　身だしなみ　６　チームワーク ７　配慮のある話し方　８　話の進め方 第２章　ビジネスのルール １　時間厳守　２　就業時間　３　テレワーク　４　あいさつ　５　お辞儀 ６　報告・連絡・相談　７　情報管理　８　ハラスメント 第３章　社内のマナー １　話を聞くとき　２　指示を受けるとき　３　注意を受けたとき ４　退社時のマナー　５　慶弔のマナー　６　贈答のマナー　７　食事のマナー ８　お酒の席のマナー 第４章　社外のマナー １　ウチとソトの関係　２　名刺交換　３　初対面の人との話題　４　席次 ５　案内と見送り　６　訪問のマナー　７　営業活動　８　派遣・出向 第５章　ビジネスのスキル １　敬語の使い方　２　書き言葉と話し言葉　３ビジネスメールの形式 ４　漢字変換の注意　５　ビジネス文書の形式　６　はがきと封筒の使い方・書き方 ７　電話を受ける　８　電話をかける		
所　見	○ 編集団体のサイトで副教材、出版社のサイトで「理解を深めましょう」のワークがダウンロードできる。 ○ 指導の手引きとして、学習者が得た知識を応用し、周囲の助けを得ながら「うまく生きていくことができる術」を身に着けさせることを強調している。		

▼ 事例19（IT分野）

教材名	課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉		
作成者	近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 著		
発行者	ココ出版		
発行年	2018年	価　格　2400円＋税	

概　要

ビジネスの現場で必要とされる能力（問題発見解決能力・課題達成能力・異文化調整能力）の育成を視野に入れた「ビジネスコミュニケーション」のテキストである。Can-do statementsを取り入れ、何を学ぶか、何ができるようになったかが一目でわかるようになっている。

内　容

○ 大手化粧品会社での業務を想定したテキスト。専門的なマーケティング手法であるSWOT分析をテーマに取り入れている。

○ 日本語の習得だけでなく、仕事をするために、必要な日本語を使えることを追求する。日本語で仕事をする際、速やかに課題を達成、問題の所在や解決の方法を探し、互いの立場や考え方、価値観を理解しつつ協力しながら取り組む能力を培えるよう、指南している。

○ 外国人だけでなく日本人への企業研修にも利用できる。

【構成】

1　企業の求める人材を知る
- ○ 企業ガイダンスを聞いて理解。
- ○ 会社概要を読んで理解。
- ○ 就職のための提出書類（エントリーシート等）を書く。
- ○ 面接で自己アピール。

2　企画を立てる
- ○ 会議の内容を聞いて、要点を理解。
- ○ グラフを見て、現状を説明。
- ○ 会議の内容を整理して報告。

3　居酒屋でコミュニケーションを図る
- ○ カジュアルな場面で話の目的や提案の内容を理解。
- ○ カジュアルな場面で人間関係を考慮しながら、会話を維持。
- ○ 職場で生じた問題や悩みについて相談。

4　企画を具体化する
- ○ SWOT分析の記事を読んで要点を整理。
- ○ SWOT分析の結果を読んで理解。
- ○ 商品を位置づけ、マーケティング戦略について議論。

5　プレゼンテーションをする
- ○ アイディアや問題を整理し、わかりやすいプレゼンテーションの資料を準備。
- ○ 分析結果をもとに、上司にプレゼンテーション。
- ○ プレゼンテーションの内容を踏まえて質問や提案。

自己評価、言語的・文化的体験の記録、スクリプト・解答

所　見

○ CD−ROMつき。また出版社サイトから、同内容の聴解のタスク（音声）・Lesson５のプレゼンテーション資料（PPT）表現の資料のデータを無料でダウンロードできる。

○ ４技能のうち、話す技能には「聴衆に向けて一方向的に話す」活動と、「対面でのやりとり」の活動を設けている。

▼ 事例20（IT分野）

教材名	ITブリッジ		
作成者	内定ブリッジ株式会社		
発行者	https://naiteibridge.com/service/itbridge/		
発行年	2017年	価　格	３箇月コース　１人65000円＋税 （10人以上一括申込の場合に割引あり）
概　要	IT業界で働く外国人社員の日本語学習のために作られたｅラーニング型の日本語研修で、IT現場における業務上の実践的なコミュニケーションを円滑にすることが目標のカリキュラムである。内定者向け研修、新人研修、入社後６箇月研修として導入する企業がある。		
内　容	○ 学習形態：　ｅラーニング ○ 受講開始：　随時開始可 ○ 対象者：　日本語中級（JLPT N3）以上 ○ 受講時間：　１講義につき20分程度、合計16時間 ○ 受講回数：　全54回（うち14回はテスト） ○ 国内外の日本企業で働く外国人ITエンジニアのために開発した教材。 ○ 複数のIT企業から回収した実業務上の日本語データベース（コーパス）を分析して教材を開発。 ○ 実際のIT開発業務で多く用いられる文体・文型・語彙の特性を集中的に効率よく学習できる。 ○ ネット環境さえあれば海外からも受講可能。 ○ 受講者ごとにIDを発行。PC・スマホ問わず各デバイスから自分のペースで学習を進められる。企業は受講者の進捗やテスト結果を把握できる。 ○ 動画講義内では毎回クイズ形式での確認問題があり、学習の理解度を確認できる。これに加え、全ての学習項目について定着度を測る10分テストが14回あり、結果は人事担当者など管理者に共有される。		
所　見	▼ 内定ブリッジ業務内容 <u>外国人材向け日本語教育</u> ○ ライブ型オンライン日本語レッスン「日本語ブリッジ」 ○ カスタマイズ型日本語レッスン「日本語ブリッジオーダーメイド研修」 <u>外国人材受け入れ企業支援</u> ○ 日本人向け研修「つながる日本語®コミュニケーション研修」 ○ やさしい日本語作成サービス「つながる日本語®翻訳サポート」 ○ 外国人材受け入れ企業向けコンサルティング「つながる日本語®人事コンサルティング」 ○ 外国人財定着度測定テスト <u>外国人支援者向け研修</u> ○ 外国人キャリア支援を行うキャリアコンサルタント向け研修		

2.4.3　調査考察

本調査結果から判るのは、IT留学生用教材の適性が、IT専門用語や開発工程の語彙に限定されず、生活・対人・就業・業務遂行という連続した文脈において把握されていることである。

本調査で整理された20事例は共通領域10事例とIT分野10事例から成り、共通領域では、総合初級教材、やさしい日本語、対人コミュニケーション、オノマトペ、生活者支援、ビジネス日本語、就活から入社までのロールプレイ等が並ぶ。IT分野では、IT業務の場面会話、仕様書読解、プロジェクトライフサイクルに基づいた読解と会話、現場語彙、IT業界会話集、ITリテラシー、企業研修型ｅラーニング等が並ぶ。

この二層構造は、IT留学生の言語課題が「一般日本語の習得」から「就業場面の言語行為」へ、さらに「ITプロジェクト固有の資料・会議・報告の言語行為」へ段階的に接続するという前提を、教材市場の側面から裏付けている。

共通領域10事例から判るのは、教材の設計が文法項目の羅列より場面・タスク・相互行為を基点にして組み立てられる傾向が強いということである。

例えば、総合教材ではストーリー展開や４技能統合を採り、生活者向けワークブックでは学習者固有の“実現したいこと”を出発点にして対話を通じて語彙と表現を拡張する構造を採る。また、会話教材群は、相槌や終助詞、配慮表現、会話の維持等の相互行為の技能を明示的に扱い、ケーススタディ型のビジネス日本語教材は、読解で商習慣の理解を形成し、会話とロールプレイで具体場面への適用を促す。

補助教材として、音声や教師用ガイド、語彙リスト等が提示されている事例も複数確認され、独習可能性と授業運用可能性の双方に配慮した商品設計が一定の厚みを持つことが、本調査結果から判る。

IT分野10事例から判るのは、対象日本語レベルが概ね中級以上に置かれ、特にN3程度以上を入口として想定する事例が複数存在することである。内容面では、仕様書・要件定義書等の文書読解、会議での確認と合意形成、進捗報告、遅延や障害対応、仕様変更交渉、テスト工程、納品後の保守等、ソフトウェア開発の標準的な工程に基づく言語行為が中心になる。ロールプレイやスキットを核に置く教材、プロジェクトライフサイクルに基づいて読解と会話を対にする教材、現場で必要な最小語彙を多言語対訳と例文で提示する単語帳、情報処理の基礎概念を平易な日本語とルビで説明するITリテラシー入門書が確認され、IT分野教材は「プロジェクト運営上のコミュニケーション」と「概念理解のための説明日本語」を両輪にしていることが判る。

提供形態にはKindle版や企業研修型ｅラーニングの事例も含まれ、IT人材育成が個人学習と組織内研修の双方で展開される現実を反映している。

全20事例を通して判るのは、多言語支援と可読性確保が広範に採用されていることである。英語の支援が最も多く、次いでベトナム語・中国語の支援、複数言語の対訳や語彙対応表、総ルビ、図解・写真・イラストの多用が頻出する。これは、学習者が語彙の意味だけでなく場面の意図や手続きの流れを誤解なく把握することを優先する設計思想が、教材形態に埋め込まれている。また、タスク達成やCan-doを前面に出す事例が複数見られる点から、学習成果を「何が出来るか」の単位で可視化する指向が一定程度浸透している。他方で、IT固有教材の多くが中級以上を前提にするため、初級段階からIT文脈に連続的に橋渡しする教材群は相対的に薄い構成である。さらに、IT分野の題材はプロジェクト運営や基礎的ITリテラシーに厚いのに対し、AIや

クラウド等の新領域を主題にして体系的に扱う事例は、少くとも本調査で整理された20事例の範囲では中心に位置していない。

以上から、本調査の結果は、現時点で入手可能な教材群が、生活・対人・就業一般の言語行為を土台にしつつ、ITプロジェクトに特有の文書・会議・報告の言語行為に焦点を当てて展開しているという教材市場の構造を、具体事例の集合として示している。